関西大学『社会学部紀要』第34巻第1号，2002，pp. 143-183　　ISSN 0287-6817

高齢者による援助行動の実態とその効用に関する研究(1)
―近隣社会における援助授受の実態と性別、年齢、ボランティア活動経験による差異―

高木　修・妹尾香織
（関西大学社会学部）（関西大学大学院博士後期課程）

Helping Behavior and its Function in the Elderly (1)
: Local helping behavior and the effects of sex, age, and volunteer experience.

Osamu TAKAGI & Kaori SENOO

Abstract

This research focused on the daily mutual helping behaviors by elderly people in their local neighborhoods, and tried to make clear the characteristics of those behaviors.

A questionnaire was administered to 1243 elderly people who attended the University for elderly people. It asked them about experiences of helping which were performed as (1) help-giving, (2) help-seeking, and (3) help-receiving for three months.

The results were as follows: helping behaviors by elderly people in daily life were carried out as exchanges of good will in the position of a helper or a recipient. Sex, health condition and volunteer activity experience, but not age, had notable effects.

Keywords: elderly people, help-giving behavior, help-seeking behavior, help-receiving behavior, mutual help

抄　録

本研究は、高齢者が近隣社会において日常的に行う援助行動に焦点をあて、高齢者の助け合いの実態を解明することを目的とした。

高齢者大学受講の高齢者計1243名に対して、最近3ヶ月間に援助者および被援助者の立場で行った援助授与、援助要請、援助受容の経験をたずねる質問紙調査を実施した。

調査の結果、高齢者が日常的に行う援助行動とは、援助者あるいは被援助者の立場での好意のやりとりであること、習慣的な援助での性差が顕著であること、年齢ではなく健康状況やボランティア活動経験で援助行動の様相が異なることなどが明らかとなった。

キーワード：高齢者、援助授与行動、援助要請行動、援助受容行動、助け合い

【問　題】

援助行動とは、恩恵の授受を目的にして、援助者と被援助者とが相互作用する一つのタイプの対人行動である。

援助行動に関する多くの先行研究が検討してきたのは、高齢者や精神的・身体的障害を持つ社会的弱者に対する援助行動であった。しかし、彼らを援助の担い手とする視点からの援助行動研究も必要と考える。すなわち、高齢者を援助の受け手として、高齢者に対するサポート実態の把握やその有用性が議論されているが(西川、2000；松井・西川、2001)、高齢者が援助を介した対人相互作用において、被援助者としてのみならず、援助者として、どのような援助に携わっているのか、また、それらの援助行動を通じて彼らがどのような心理・社会的効用を得ているのかについては、ほとんど明らかにされていない。

昨今の超高齢化社会においては、高齢者を援助者としても位置づけ、積極的な援助の担い手として彼らが行動し得る可能性やそのような行動が果たす心理学的機能の究明が急務であろう。

本研究は、このような問題意識から、高齢者をめぐり、特に近隣社会で日常的にやりとりされている援助行動に焦点を当てる。こうした近隣社会で交わされる援助の多くは、近親者、知人、友人、あるいは隣近所の人たちといった比較的長期的な人間関係を形成している人たちとの間で交わされているが(西川、1997)、彼らからの援助は、高齢者の生活上の不安を解消する上で重要であると共に(西川、2000)、逆に、彼らに対する高齢者の援助は、両者の人間関係の維持・促進や彼ら自身の心理・社会的安寧にとって欠かせないものと考える。

そこで、本稿では、研究の第1目的として、高齢者がこうした身近な人々との間で交わす日常的な助け合いの実態を解明する。

ところで、高齢者は、一般に、加齢に伴って身体機能を低下させており、それをカバーするための援助が必要となろう。また、老年期はうつ病などの精神疾患が好発するため、精神的な支えも必要となろう。逆に、高齢者は、援助で役立つさまざまな知恵や技術を生活経験の中で身につけており、加えて、物理的にも定年退職や子育ての終了とともに時間的余裕があり、彼らが積極的な援助の担い手となる可能性も高いと考える。

女性と男性とでは、一般に、それまでの生活における援助的な他者との関わり経験が異なっているだろう。女性の多くは、家庭の中で家族の世話をし、子育てや親世代の介護の

主軸となるなど、他者との関わりが援助的で、日頃から援助行動の担い手となっており、また、それらの多くは家庭や地域に根ざしたものであるために、女性は近隣社会において日常的に他者を助け世話をする行動を行っていると考えられる。他方、男性の多くは、家庭や地域を離れた人間関係が中心であり、その関わりは経済活動を中心とした人間関係であるために、援助的な他者と関わりが比較的希薄で、そのような関わりに消極的であると考える。

近年では、高齢者が生きがいを得る機会としてボランティア活動が注目され、高齢者のボランティア組織の誕生も見られる（妹尾、2001）。妹尾・高木・箱井（2000）は、高齢者のボランティア活動への興味・関心や活動経験および活動による生きがい獲得が、年齢や社会的属性によってどのように異なるかを解明するために、大阪府内在住の高齢者、計2200名を対象に実施した質問紙調査のデータを再分析した。そして、従来援助の受け手とし認知されてきた高齢者のボランティア活動に対する興味・関心は高く、彼らが実際にさまざまなボランティア活動に参加しており、また、積極的に生きがい、健康作りに取り組み、さらに、この高齢者ボランティアの中でも、経済活動を現役でまだ続けている者に比べて、時間的余裕のある主婦や無職の者らが一層積極的であり、ボランティア観は活動経験によって異なることを明らかにしている。

そこで、本稿の第2目的として、高齢者が身近な人々との間で交わす日常的な助け合いの実態が、性別、年齢、ボランティア活動経験によっていかに異なるかをも検討する。

【目　的】

以上をまとめると、本稿の目的は、日常生活における高齢者の助け合いの実態とその差異を解明することである。具体的には、地域社会における日常生活の中で行われる典型的な援助行動に関して、援助者の立場からの援助授与行動の経験と、被援助者の立場からの援助要請行動および援助受容行動の経験を明らかにし、それらが性別や年齢、ボランティア活動経験の3要因によっていかに異なるかを検討する。

この目的に従って、本稿では、以下の4点から、高齢者の助け合いの実態を特徴づける。

1．援助項目毎に3行動（授与、要請、受容）の経験率を求める。

2．援助項目毎に援助の授与と受容の対応関係を検討する。

3．経験した援助項目の数を加算して援助行動経験の多様さの程度を求める。

4．1～3が、性別や年齢、ボランティア活動経験の3要因によっていかに異なるかを検

討する。

【方　法】

被調査者

高齢者大学を受講する高齢者、計1243名を対象者とし、2001年9月下旬より11月中旬の期間に調査(留置き法と集合調査を併用)を実施し、677名から回答を得た(回収率：54.4％)。

調査票の構成

調査票は、フェイスシート、援助行動経験質問紙から成る。

(1)　フェイスシート

被調査者の属性として、性別、年齢、現在の健康状態、ボランティア活動の経験の有無をたずねた。

(2)　援助行動経験

西川（1997）の日常生活における援助行動項目を松井・西川（2001）が高齢者向けに改変した援助行動項目から26項目を選定し、最近3ヶ月間に、援助授与行動として、援助要請行動して、援助受容行動としてそれぞれを経験したことがあるかどうかをたずねた。

【結果と考察】

調査回答者の特徴

(1)　性別の内訳

男性が357名（52.7％）、女性が292名（43.1％）、性別不明が28名（4.1％）で、若干男性の回答者が多かった。

(2)　年齢

彼らの年齢は、57歳から88歳までの年齢幅にあり、平均年齢は67.5歳（SD＝4.6）で、回答が最も多かったのは68歳であった。

調査回答者を、平均より年齢が低い若年高齢者（N＝308、48.7％、57歳から67歳までで、平均年齢は63.3歳）と、平均より年齢が高い老年高齢者（N＝324、51.3％、68歳から88歳までで、平均年齢は71.4歳）に分け、この年代(2)と男女(2)の組み合わせによる彼らの構成比（表1）についてχ^2検定を行ったところ、男性では老年高齢者が多く、女性で

表1　調査回答者の性別 および 年代別構成（人数、割合）

	若年高齢者	老年高齢者	合計
男	155	196	351
%	44.2	55.8	100
女	153	129	282
%	54.3	45.7	100
全体	308	325	633
%	48.7	51.3	100

は若年高齢者が多かった（$\chi^2(1)=6.38$、$p<.05$）。

(3)　現在の健康状態

調査回答者の現在の健康状態、特に、生活自立度をたずねたところ、「たいした病気や障害などもなく、普通に生活している。」が480名(72.6％)、「何らかの病気や障害などはあるが、日常生活はほぼ自分で行えるし、外出も一人でできる。」が177名(26.8％)、「何らかの病気や障害などがあって、家の中の生活はおおむね自分で行えるが、外出は一人でできない。」が1名（0.2％)、「何らかの病気や障害などがあって、日常生活や外出にある程度の不都合がある。」が3名（0.5％）であった。

総務庁の「高齢者の日常生活に関する意識調査」(1999）では、全体の85.6％の高齢者が日常生活を営む上で、不自由を感じることなく普通に生活出来ると回答しているが、本調査の回答者の場合、この結果を上回る99.4％が、生活自立度の高い健康な高齢者であった。しかし、年齢でみると、「たいした病気や障害などもなく、普通に生活している」と回答する人は若年高齢者で多かったが、「何らかの病気や障害などはあるが、日常生活はほぼ自分で行えるし、外出もひとりでできる」と回答する人が老年高齢者で多くなっており、年齢の上昇によって病気や障害が無く高い健康度を維持することが難しくなることが示さ

表2　年代別で見た現在の健康状態（人数、割合）

	1	2	3	4	合計
若年高齢者	241	64	1	2	308
%	78.2	20.8	0.3	0.6	100.0
老年高齢者	215	108	0	1	324
%	66.4	33.3	0.0	0.3	100.0
全体	456	172	1	3	632
%	72.2	27.2	0.2	0.5	100.0

1．病気、障害なく普通に生活
2．病気、障害はあるが、普通に生活
3．病気、障害があり、生活は出来るが外出は無理
4．病気、障害があり、生活、外出に不都合

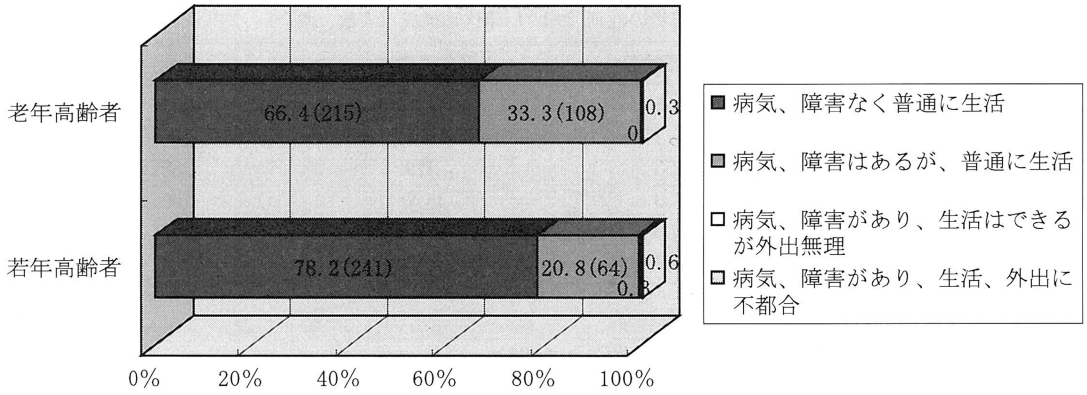

図1　年代別で見た現在の健康状態

れた（$\chi^2(3)=13.68$、$p<.01$）。

(4)　ボランティア活動経験

ボランティア活動を、“あなたご自身の好意で、他者の幸福・安寧のために行う活動”と定義し、ボランティア活動の経験の有無をたずねたところ、「過去に行ったことがあるが、現在は行っていない」が35.7％（N＝229）、「現在行っている」が39.0％（N＝250）、「行ったことがない」が25.3％（N＝162）であった（図2）。

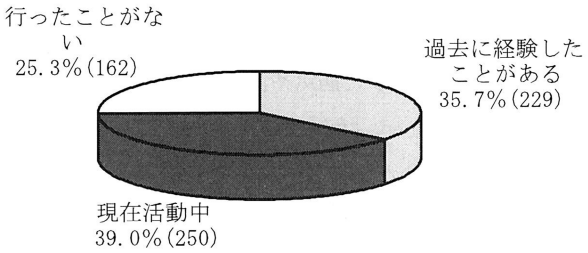

図2　ボランティア活動経験

このボランティア活動経験を、まず、男女別に見みると(表3)、「過去に行っているが、現在は行っていない」とする人の割合に性差は認められないが、「現在行っている」とする人には女性が、逆に、「経験なし」とする人には男性が比較的多かった（$\chi^2(2)=6.72$、$p<.05$）。

また、年代別に見ると（表4）、「過去に行っているが、現在は行っていない」とする人の割合には年代差はないが、「現在行っている」とする人には若年高齢者が、逆に、「経験なし」とする人には老年高齢者が比較的多かった（$\chi^2(2)=7.87$、$p<.05$）。

表3　調査回答者のボランティア活動経験と性別構成（人数、割合）

	過去にあり	現在活動中	経験なし	合計
男	128	120	99	347
%	36.9	34.6	28.5	100.0
女	97	124	61	282
%	34.4	44.0	21.6	100.0
全体	225	244	160	629
%	35.8	38.8	25.4	100.0

表4　調査回答者のボランティア活動経験と年代構成（人数、割合）

	過去にあり	現在活動中	経験なし	合計
若年高齢者	105	132	66	303
%	34.7	43.6	21.8	100.0
老年高齢者	113	106	94	313
%	36.1	33.9	30.0	100.0
全体	218	238	160	616
%	35.4	38.6	26.0	100.0

表5　調査回答者のボランティア活動経験と健康度構成（人数、割合）

	過去にあり	現在活動中	経験なし	合計
健康高群	156	191	119	466
%	33.5	41.0	25.5	100.0
健康低群	73	59	42	174
%	42.0	33.9	24.1	100.0
全体	229	250	161	640
%	35.8	39.1	25.2	100.0

さらに、現在の健康状態について、「たいした病気や障害などもなく、普通に生活している。」とする人を健康高群（N＝480、72.6％）とし、それ以外の「何らかの病気や障害などはあるが、日常生活はほぼ自分で行えるし、外出も一人でできる。」、「何らかの病気や障害などがあって、家の中の生活はおおむね自分で行えるが、外出は一人でできない。」、「何らかの病気や障害などがあって、日常生活や外出にある程度の不都合がある。」とする人を健康低群（N＝181、27.4％）として、ボランティア活動経験をこの健康状態群別に見ると（表5）、ボランティア活動経験に有意な健康度差は見られなかった（$\chi^2(2)=4.27$、ns）。

日常生活における高齢者の助け合い

(1)　援助行動の実態

高齢者が近隣社会において日常的に行っている援助の授与、要請、受容の3つのタイプ

表6　日常生活における援助行動の経験率と順位（N＝677）

援助の内容	授与		要請		受容	
	経験率	順位	経験率	順位	経験率	順位
(1)健康を気づかっての電話	55.8	1	19.9	1	28.7	3
(2)炊事洗濯などの身の回り代行	13.9	20	4.0	21	4.6	20
(3)入院時の介護	10.2	22	3.1	23	1.7	26
(4)旅行への誘い	41.6	3	19.6	2	35.9	2
(5)おかずや野菜のおすそ分け	31.7	8	10.8	12	24.8	5
(6)降雨時、留守宅の洗濯物とり入れ	11.9	21	2.6	25	3.1	24
(7)目的地への車での送迎	35.6	7	18.6	3	23.4	6
(8)講演会などの行事案内通知	29.0	9	13.9	6	26.7	4
(9)2、3日姿を見せなかった時の声かけ	19.6	13	7.7	14	8.2	13
(10)代わりの荷物持ち	18.0	16	3.9	22	3.7	21
(11)買い物の代行	14.3	19	6.8	16	6.2	17
(12)趣味のサークルなどへの勧誘	36.4	19	17.9	4	20.8	7
(13)金銭の授与	8.8	25	2.0	26	2.2	25
(14)宅配便の預かり	15.3	17	8.3	13	9.4	12
(15)病院への同行	18.2	15	5.7	17	5.4	19
(16)忘れ物の指摘	18.3	14	6.9	15	8.2	14
(17)車やバスでの席譲り	25.9	11	4.9	19	6.8	16
(18)話しや相談などへの傾聴	35.9	6	11.1	11	10.3	10
(19)肩もみ	9.2	24	5.5	18	5.9	18
(20)食べやすいものの調理	9.9	23	3.1	24	3.7	22
(21)遊びや買い物などへの同伴	26.8	10	11.6	9	12.6	8
(22)おみやげの授与	54.9	2	13.3	7	39.4	1
(23)留守時、飼っている生き物の世話	6.6	26	4.2	20	3.5	23
(24)駅までの見送り、出迎え	22.3	12	11.7	8	9.9	11
(25)よい病院などの情報提供	15.4	18	10.9	10	8.3	15
(26)干渉しあわないような配慮	36.8	5	14.6	5	10.5	9

注：各援助を各立場で行った人の割合を示す（単位は%）。

の行動の経験率とその順位を表6に示した。また、各行動のタイプ別の経験率を図3に示した。

表と図によると、まず、援助授与行動で経験率の高い上位3行動は、「健康を気遣っての電話」（55.8％）、「おみやげの授与」（54.9％）、「旅行への誘い」（41.6％）であった。反対に、最も経験率の低い行動は、「留守時、飼っている生き物の世話」（6.6％）であった。

次に、援助要請行動で経験率の高い上位3行動は、「健康を気づかっての電話」（19.9％）、「旅行への誘い」（19.6％）、「目的地への車の送迎」（18.6％）であった。反対に、最も経験率の低い行動は、「金銭の授与」（2.0％）であった。

さらに、援助受容行動で経験率の高い上位3行動は、「おみやげの授与」（39.4％）、「旅

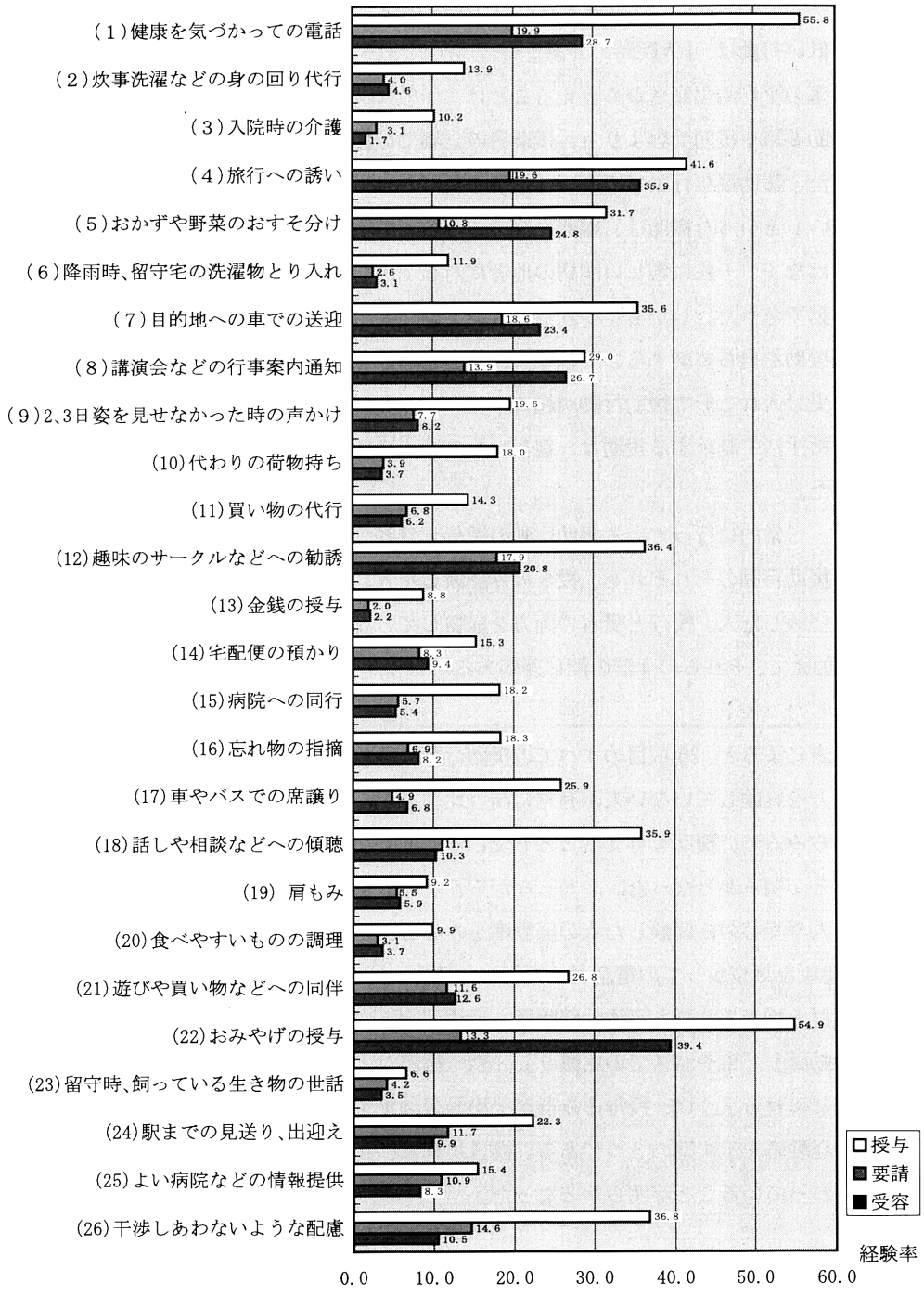

図3　日常生活における援助行動経験

行への誘い」(35.9％)、「健康を気づかっての電話」(28.7％)であった。反対に、最も経験率の低い行動は、「入院時の介護」(1.7％) であった。

経験率の平均的な高さから言えることは、一般に、高齢者においては、被援助者の立場での援助要請や援助受容よりも、援助者の立場での援助授与の経験率の方が高いことである。また、援助授与行動率の高い「健康を気づかっての電話」、「おみやげの授与」、「旅行への誘い」といった援助は、困難に立っている人の窮地を救うといった切迫場面での援助行動ではなく、一般に親しい間柄の他者に対して、必ずしも急を要さない場面でなされる援助行動であった。しかも、これらの行動では、要請よりも受容の経験率の方が高いことから、援助を自ら要請するのではなく、援助者の好意によって行動の申し出があり、その好意を受け入れる形で援助行動が起こっていることが窺われる。これらのことから、高齢者が日常生活で経験する援助は、親しいもの同士の好意のやりとりの中で起こることが示唆された。

次に、日常的に行っている援助行動の授与と受容の対応関係を明らかにするために、26項目の援助行動のそれぞれを、授与のみ経験した人、受容のみ経験した人、授与と受容の両方を経験した人、授与と受容の両方を経験していない人の4群に分けて、その割合を求めた。加えて、それらの4群の間に差があるかどうかを見るために χ^2 検定を行い、その結果も示した（表7）。

この表によると、26項目のすべての援助行動の経験率において有意な群間の差が認められ、両方を経験していない人が有意に高い比率を示している。このように援助授受の対応関係からみると、援助を与えることも受けることもない高齢者が多数（38.0％～91.1％）いることが明らかとなった。しかしながら、授与と受容の両方を経験した人や授与のみ経験した人や受容のみ経験した人の経験率をみると、その関係に3つの型があることが分かる。「健康を気づかっての電話」、「旅行への誘い」、「おみやげの授与」におけるように、授与のみ群と授受あり群も平均的経験率を示す型、「目的地への車での送迎」、「趣味のサークルへの勧誘」、「車やバスでの席譲り」、「話や相談などへの傾聴」、「干渉しあわないような配慮」におけるように、授与のみ群が平均的経験率を示す型、そして、いずれの群も有意に低い経験率を示す型の3つである。換言すれば、高い経験率ではないが、高齢者も授与にも関わっていることが明らかとなった。

(2) 性別による援助行動経験の差異（χ^2 検定の結果）

つづいて、男性と女性で日頃行っている援助行動にどのような違いがあるかを明らかに

表7　日常生活における援助授受関係（N＝677）

援助の内容	授与のみ群		受容のみ群		授受あり群		授受なし群		
	%	N	%	N	%	N	%	N	$\chi^2(3)$
(1)健康を気づかっての電話	31.9	216	5.8	39	22.9	155	39.4	267	170.81＊＊＊
(2)炊事洗濯などの身の回り代行	11.4	77	2.2	15	2.2	15	84.2	570	1280.34＊＊＊
(3)入院時の介護	9.9	67	1.3	9	0.3	2	88.5	599	1469.97＊＊＊
(4)旅行への誘い	20.4	138	14.9	101	20.4	138	44.4	300	140.07＊＊＊
(5)おかずや野菜のおすそ分け	14.3	97	7.5	51	16.7	113	61.4	416	491.89＊＊＊
(6)降雨時、留守宅の洗濯物とり入れ	9.9	67	1.5	10	1.6	11	87.0	589	1400.58＊＊＊
(7)目的地への車での送迎	26.3	178	14.2	96	8.9	60	50.7	343	281.04＊＊＊
(8)講演会などの行事案内通知	14.9	101	12.6	85	13.4	91	59.1	400	420.24＊＊＊
(9)2、3日姿を見せなかった時の声かけ	14.9	101	4.0	27	4.6	31	76.5	518	978.63＊＊＊
(10)代わりの荷物持ち	16.1	109	2.2	15	1.6	11	80.1	542	1130.92＊＊＊
(11)買い物の代行	10.5	71	2.5	17	3.5	24	83.5	565	1244.01＊＊＊
(12)趣味のサークルなどへの勧誘	24.8	168	9.3	63	11.1	75	54.8	371	359.69＊＊＊
(13)金銭の授与	7.2	49	0.7	5	1.5	10	90.5	613	1558.13＊＊＊
(14)宅配便の預かり	10.6	72	4.3	29	4.9	33	80.2	543	1107.12＊＊＊
(15)病院への同行	16.0	108	3.5	24	1.9	13	78.6	532	1068.54＊＊＊
(16)忘れ物の指摘	14.9	101	5.2	35	3.1	21	76.8	520	990.75＊＊＊
(17)車やバスでの席譲り	21.9	148	3.2	22	3.7	25	71.2	482	831.64＊＊＊
(18)話しや相談などへの傾聴	27.6	187	2.7	18	7.7	52	62.0	420	589.75＊＊＊
(19)肩もみ	6.9	47	3.5	24	2.1	14	87.4	592	1411.61＊＊＊
(20)食べやすいものの調理	8.1	55	2.2	15	1.5	10	88.2	597	1448.61＊＊＊
(21)遊びや買い物などへの同伴	18.0	122	4.0	27	8.3	56	69.7	472	750.08＊＊＊
(22)おみやげの授与	23.5	159	8.6	58	30.0	203	38.0	257	125.97＊＊＊
(23)留守時、飼っている生き物の世話	5.5	37	2.4	16	1.0	7	91.1	617	1582.16＊＊＊
(24) 駅までの見送り、出迎え	17.3	117	5.2	35	4.6	31	73.0	494	858.66＊＊＊
(25)よい病院などの情報提供	11.4	77	4.3	29	4.0	27	80.4	544	1115.82＊＊＊
(26)干渉しあわないような配慮	27.0	183	1.6	11	8.7	59	62.6	424	604.34＊＊＊

注：項目ごとの援助内容を各側面で行った人の割合を示す（単位は%）。
有意に期待度数より高いカテゴリーには網掛けがしてある。
＊＊＊ p＜.001

するために、26項目の援助行動それぞれの授与経験率（表8）、要請経験率（表9）、受容経験率（表10）を男女別に求めた。そして、それぞれの行動の経験率に性差があるかどうかを見るために χ^2 検定を行い、その結果をそれぞれの表に示した。

それらの表によると、性差の見られたのは、援助授与経験率では、26項目のうち13援助において、援助要請経験率では、9援助において、援助受容経験率では、12援助においてであった。

まず、援助授与で女性の方が男性よりも有意に高い経験率を示したのは、「健康を気づかっての電話」（男性44.5％－女性69.5％）、「おかずや野菜のおすそ分け」（16.2％－50.7

%)、「2、3日姿を見せなかった時の声かけ」(11.8%−29.1%)、「代わりの荷物持ち」(14.0%−22.9%)、「忘れ物の指摘」(14.6%−22.9%)、「話しや相談などへの傾聴」(26.1%−47.9%)、「食べやすいものの調理」(5.3%−15.4%)、「おみやげの授与」(41.7%−70.9%)、「よい病院などの情報提供」(10.1%−21.9%)、「干渉しあわないような配慮」(25.8%−50.3%)といった援助であった。一方、男性の方が女性よりも有意に高い経験率を示したのは、「目的地への車での送迎」(45.7%−23.3%)、「買い物の代行」(16.8%−11.3%)、「駅までの見送り、出迎え」(27.2%−16.4%) といった援助であった。

次に、援助要請で女性の方が男性よりも有意に高い経験率を示したのは、「健康を気づかっての電話」(15.4%−25.3%)、「おかずや野菜のおすそ分け」(4.8%−18.2%)、「2、3日姿を見せなかった時の声かけ」(5.6%−10.3%)、「忘れ物の指摘」(3.9%−10.6%)、「話しや相談などへの傾聴」(8.7%−14.0%)、「遊びや買い物などへの同伴」(8.7%−15.1%)、「おみやげの授与」(10.6%−16.4%)、「よい病院などの情報提供」(8.4%−14.0%)、「干渉しあわないような配慮」(10.9%−19.2%) といった援助であった。なお、援助要請においては、男性の方が女性よりも有意に高い経験率を示した援助行動はなかった。

最後に、援助受容で女性の方が男性よりも有意に高い経験率を示したのは、「健康を気づかっての電話」(21.8%−37.0%)、「おかずや野菜のおすそ分け」(17.1%−34.2%)、「降雨時、留守宅の洗濯物とり入れ」(1.7%−4.8%)、「目的地への車での送迎」(18.2%−29.8%)、「2、3日姿を見せなかった時の声かけ」(6.2%−10.6%)、「代わりの荷物持ち」(1.4%−6.5%)、「忘れ物の指摘」(6.2%−10.6%)、「話しや相談などへの傾聴」(6.7%−14.7%)、「遊びや買い物などへの同伴」(7.6%−18.8%)、「おみやげの授与」(33.3%−46.9%)、「干渉しあわないような配慮」(7.0%−14.7%)といった援助であった。一方、男性の方が女性よりも有意に高い経験率を示したのは、「食べやすいものの調理」(5.0%−2.1%) においてであった。

以上の結果から、日常生活における援助行動の様相が男女間でかなり異なることが示唆された。性差が顕著なのは、比較的習慣的になされる援助であり、留守時や入院時など不在時の比較的非日常的な援助に関しては、あまり男女差は見られなかった。女性の経験率が、援助の授与、要請、受容すべての立場において、男性のそれらよりも高いことが多くの行動で認められた。従来の研究では、女性は男性に比べて援助を求めやすく、また援助を受けやすいことが報告されているが(高木、1998)、援助者の立場においても、女性は男性と同じ、あるいはそれ以上に行動を経験していることが示された。これらの結果から、生活基盤となる近隣社会における日常的な援助行動は女性を中心に行われており、逆に男

表 8　日常生活における援助授与行動の性差（N＝649）

援助の内容	男		女		
	%	N	%	N	$\chi^2(1)$
(1)健康を気づかっての電話	44.5	159	69.5	203	40.64＊＊＊
(2)炊事洗濯などの身の回り代行	13.4	48	14.4	42	.12
(3)入院時の介護	9.0	32	11.6	34	1.26
(4)旅行への誘い	38.7	138	45.2	132	2.84＋
(5)おかずや野菜のおすそ分け	16.2	58	50.7	148	87.93＊＊＊
(6)降雨時、留守宅の洗濯物とり入れ	14.0	50	9.2	27	3.48＋
(7)目的地への車での送迎	45.7	163	23.3	68	35.06＊＊＊
(8)講演会などの行事案内通知	26.3	94	32.2	94	2.68
(9)２、３日姿を見せなかった時の声かけ	11.8	42	29.1	85	30.70＊＊＊
(10)代わりの荷物持ち	14.0	50	22.9	67	8.69＊＊
(11)買い物の代行	16.8	60	11.3	33	3.97＊
(12)趣味のサークルなどへの勧誘	35.3	126	37.7	110	.39
(13)金銭の授与	9.2	33	8.2	24	.21
(14)宅配便の預かり	13.2	47	17.8	52	2.68
(15)病院への同行	19.0	68	17.1	50	.40
(16)忘れ物の指摘	14.6	52	22.9	67	7.53＊＊
(17)車やバスでの席譲り	23.2	83	29.1	85	2.88＋
(18)話しや相談などへの傾聴	26.1	93	47.9	140	33.46＊＊＊
(19)肩もみ	10.9	39	7.2	21	2.67＋
(20)食べやすいものの調理	5.3	19	15.4	45	18.39＊＊＊
(21)遊びや買い物などへの同伴	23.8	85	30.5	89	3.64＋
(22)おみやげの授与	41.7	149	70.9	207	55.13＊＊＊
(23)留守時、飼っている生き物の世話	6.4	23	6.8	20	.04
(24)駅までの見送り、出迎え	27.2	97	16.4	48	10.66＊＊
(25)よい病院などの情報提供	10.1	36	21.9	64	17.26＊＊＊
(26)干渉しあわないような配慮	25.8	92	50.3	147	41.69＊＊＊

注：各援助を授与した人の割合を示す（単位は%）。
有意な性差が見られたものには、(濃いもの：p＜.01、薄いもの：p＜.05）網掛けがしてある。
＊＊＊ p＜.001、＊＊ p＜.01、＊ p＜.05、＋p＜.10

性が援助を介した人間関係に消極的になっていることが示唆された。

次に、男性と女性で日頃行っている援助行動の授与と受容の対応関係にどのような違いがあるかを明らかにするために、26 項目の援助行動それぞれを、授与のみ経験した人、受容のみ経験した人、授与と受容の両方を経験した人、授与と受容の両方を経験していない人の 4 群と男女を組み合わせて求めた。加えて、それぞれの群間に差があるかどうかを見るために χ^2 検定を行った（表 11）。

この表によると、有意な連関性が認められたのは、26 援助行動のうち 15 行動においてであった。

表9　日常生活における援助要請行動の性差（N＝649）

援助の内容	男		女		
	%	N	%	N	$\chi^2(1)$
(1)健康を気づかっての電話	15.4	55	25.3	74	9.96＊＊
(2)炊事洗濯などの身の回り代行	4.8	17	3.1	9	1.18
(3)入院時の介護	3.4	12	2.7	8	.21
(4)旅行への誘い	18.5	66	20.9	61	.59
(5)おかずや野菜のおすそ分け	4.8	17	18.2	53	29.92＊＊＊
(6)降雨時、留守宅の洗濯物とり入れ	2.0	7	3.4	10	1.35
(7)目的地への車での送迎	17.4	62	20.2	59	.85
(8)講演会などの行事案内通知	14.3	51	13.4	39	.12
(9)2、3日姿を見せなかった時の声かけ	5.6	20	10.3	30	4.93＊
(10)代わりの荷物持ち	3.1	11	4.8	14	1.27
(11)買い物の代行	6.7	24	6.8	20	.00
(12)趣味のサークルなどへの勧誘	18.8	67	16.8	49	.43
(13)金銭の授与	2.2	8	1.7	5	.23
(14)宅配便の預かり	6.7	24	10.3	30	2.66
(15)病院への同行	6.2	22	5.1	15	.31
(16)忘れ物の指摘	3.9	14	10.6	31	11.16＊＊
(17)車やバスでの席譲り	3.9	14	6.2	18	1.72
(18)話しや相談などへの傾聴	8.7	31	14.0	41	4.67＊
(19)肩もみ	5.3	19	5.8	17	.08
(20)食べやすいものの調理	3.6	13	2.4	7	.83
(21)遊びや買い物などへの同伴	8.7	31	15.1	44	6.40＊
(22)おみやげの授与	10.6	38	16.4	48	4.69＊
(23)留守時、飼っている生き物の世話	3.9	14	4.5	13	.11
(24)駅までの見送り、出迎え	10.4	37	13.4	39	1.39
(25)よい病院などの情報提供	8.4	30	14.0	41	5.24＊
(26)干渉しあわないような配慮	10.9	39	19.2	56	8.76＊＊

注：各援助を要請した人の割合を示す（単位は%）。
有意な性差が見られたものには、(濃いもの：p<.01、薄いもの：p<.05）網掛けがしてある。
＊＊＊ p<.001、＊＊ p<.01、＊ p<.05、+p<.10

それらの行動を個別に見ると、「健康を気づかっての電話」の経験率は、授与のみ経験した人（男性27.2％－女性38.7％）、授与と受容の両方の経験のある人（17.4％－30.8％）においては、男性よりも女性の方が有意に高いが、授与と受容の両方を経験していない人（51.0％－24.3％）においては、逆に、男性の方が女性よりも有意に高い。なお、受容のみ経験した人（4.5％－6.2％）においては、性差は認められない。

「おかずや野菜のおすそ分け」の経験率は、授与と受容の両方を経験していない人（76.2％－42.1％）においては、女性よりも男性の方が有意に高いが、授与のみ経験した人（6.7％－23.6％）や授与と受容の両方を経験した人（9.5％－27.1％）においては、男性より

表 10　日常生活における援助受容行動の性差（N＝649）

援助の内容	男		女		
	%	N	%	N	$\chi^2(1)$
(1)健康を気づかっての電話	21.8	78	37.0	108	18.00＊＊＊
(2)炊事洗濯などの身の回り代行	5.0	18	4.1	12	.32
(3)入院時の介護	2.5	9	0.7	2	3.25＋
(4)旅行への誘い	32.8	117	39.7	116	3.37＋
(5)おかずや野菜のおすそ分け	17.1	61	34.2	100	25.36＊＊＊
(6)降雨時、留守宅の洗濯物とり入れ	1.7	6	4.8	14	5.21＊
(7)目的地への車での送迎	18.2	65	29.8	87	12.02＊＊
(8)講演会などの行事案内通知	26.9	96	26.4	77	.02
(9)2、3日姿を見せなかった時の声かけ	6.2	22	10.6	31	4.25＊
(10)代わりの荷物持ち	1.4	5	6.5	19	11.76＊＊
(11)買い物の代行	5.9	21	6.5	19	.11
(12)趣味のサークルなどへの勧誘	20.4	73	21.2	62	.06
(13)金銭の授与	2.2	8	2.1	6	.03
(14)宅配便の預かり	9.2	33	9.6	28	.02
(15)病院への同行	4.8	17	6.2	18	.62
(16)忘れ物の指摘	6.2	22	10.6	31	4.25＊
(17)車やバスでの席譲り	5.6	20	8.2	24	1.74
(18)話しや相談などへの傾聴	6.7	24	14.7	43	11.11＊＊
(19)肩もみ	5.3	19	6.5	19	.41
(20)食べやすいものの調理	5.0	18	2.1	6	4.03＊
(21)遊びや買い物などへの同伴	7.6	27	18.8	55	18.49＊＊＊
(22)おみやげの授与	33.3	119	46.9	137	12.41＊＊＊
(23)留守時、飼っている生き物の世話	3.4	12	3.8	11	.08
(24)駅までの見送り、出迎え	8.4	30	11.6	34	1.90
(25)よい病院などの情報提供	6.7	24	10.3	30	2.66
(26)干渉しあわないような配慮	7.0	25	14.7	43	10.21＊＊

注：各援助を受容した人の割合を示す（単位は%）。
有意な性差が見られたものには、（濃いもの：p＜.01、薄いもの：p＜.05）網掛けがしてある。
＊＊＊ p＜.001、＊＊ p＜.01、＊ p＜.05、＋p＜.10

も女性の方が有意に高い。なお、受容のみ経験した人（7.6％－7.2％）においては、性差は認められない。

「降雨時、留守宅の洗濯物とり入れ」の経験率は、授与のみ経験した人(13.2％－6.5％)においては、女性よりも男性の方が有意に高いが、受容のみ経験した人(0.8％－2.1％)、授与と受容の両方を経験した人（0.8％－2.7％)、授与と受容の両方を経験していない人（85.2％－88.7％）においては、性差は認められない。

「目的地への車での送迎」の経験率は、授与のみ経験した人（34.5％－16.8％）や授与と受容の両方を経験した人（11.2％－6.5％）においては、女性よりも男性の方が有意に

高いが、受容のみ経験した人（7.0％－23.3％）においては、逆に、男性よりも女性の方が有意に高い。なお、授与と受容の両方を経験していない人(47.3％－53.4％)において、性差は認められない。

「2、3日姿を見せなかった時の声かけ」の経験率は、授与のみ経験した人(9.8％－21.6％）や授与と受容の両方を経験した人（2.0％－7.5％）においては、男性よりも女性の方が有意に高いが、授与と受容の両方を経験していない人（84.0％－67.8％）においては、逆に、女性よりも男性の方が有意に高い。なお、受容のみ経験した人（4.2％－3.1％）においては、性差は認められない。

「代わりの荷物持ち」の経験率は、授与と受容の両方を経験していない人(85.2％－73.6％)においては、女性よりも男性の方が有意に高いが、授与のみ経験した人(13.4％－19.9％)、受容のみ経験した人(0.8％－3.4％)、授与と受容の両方を経験した人(0.6％－3.1％）においては、逆に、男性よりも女性の方が有意に高い。

「買い物の代行」の経験率は、受容のみ経験した人（1.4％－4.1％）においては、男性よりも女性の方が有意に高いが、授与と受容の両方を経験していない人（81.8％－84.6％)、授与のみ経験した人(12.3％－8.9％)、授与と受容の両方を経験した人(4.5％－2.4％）においては、性差は認められない。

「忘れ物の指摘」の経験率は、授与と受容の両方を経験していない人（81.0％－71.2％）においては、女性よりも男性の方が有意に高いが、授与と受容の両方の経験のある人(1.7％－4.8％)においては、逆に、男性よりも女性の方が有意に高い。なお、授与のみ経験した人（12.9％－18.2％)、受容のみ経験した人（4.5％－5.8％）においては、性差は認められない。

「話や相談への傾聴」の経験率は、授与のみ経験した人（21.6％－36.0％）や授与と受容の両方を経験した人（4.5％－12.0％）においては、男性よりも女性の方が有意に高いが、授与と受容の両方を経験していない人（71.7％－49.3％）においては、逆に、男性の方が女性よりも有意に高い。なお、受容のみ経験した人（2.2％－2.7％）においては、性差は認められない。

「食べやすいものの調理」の経験率は、授与のみ経験した人（3.4％－14.7％）においては、男性よりも女性の方が有意に高いが、授与と受容の両方を経験していない人(91.6％－83.2％）においては、逆に、女性よりも男性の方が有意に高い。なお、受容のみ経験した人（2.0％－0.7％）や授与と受容の両方を経験した人（3.1％－1.4％）においては、性差は認められない。

「遊びや買い物などへの同伴」の経験率は、授与と受容の両方を経験していない人（73.9％－63.0％）においては、女性よりも男性の方が有意に高いが、受容のみ経験した人（2.2％－6.5％）や授与と受容の両方を経験した人（5.3％－12.3％）においては、逆に、男性よりも女性の方が有意に高い。なお、授与のみ経験した人（18.5％－18.2％）においては、性差は認められない。

「おみやげの授受」の経験率は、授与のみ経験した人（18.2％－30.5％）や授与と受容の両方を経験した人（23.5％－40.4％）においては、男性よりも女性の方が有意に高いが、授与と受容の両方を経験していない人（48.5％－22.6％）においては、逆に、女性よりも男性の方が有意に高い。なお、受容のみ経験した人（9.8％－6.5％）においては、性差は認められない。

「駅までの見送り、出迎え」の経験率では、授与のみ経験した人（21.6％－12.7％）においては、女性よりも男性の方が有意に高いが、受容のみ経験した人（2.8％－7.9％）においては、逆に、男性よりも女性の方が有意に高い。なお、授与と受容の両方を経験した人（5.6％－3.8％）や授与と受容の両方を経験していない人（70.0％－75.7％）においては、性差は認められない。

「よい病院などの情報提供」の経験率では、授与のみ経験した人（7.8％－15.8％）や授与と受容の両方を経験した人（2.2％－6.2％）においては、男性よりも女性の方が有意に高いが、授与と受容の両方を経験していない人（85.4％－74.0％）においては、逆に、女性よりも男性の方が有意に高い。なお、受容のみ経験した人（4.5％－4.1％）においては、性差は認められない。

「干渉しあわないような配慮」の経験率では、授与のみ経験した人（20.4％－37.0％）や授与と受容の両方を経験した人（5.3％－13.4％）においては、男性よりも女性の方が有意に高いが、授与と受容の両方を経験していない人（72.5％－48.3％）においては、逆に、女性よりも男性の方が有意に高い。なお、受容のみ経験した人（1.7％－1.4％）においては、性差は認められない。

以上のように、援助授受の対応関係に性差の見られる援助行動の多いことが明らかになった。そして、授与と受容の経験率が女性よりも男性の方が高い援助行動においては、男性がそ（れら）の行動に主として関わり、逆に、女性の方が高い援助行動においては、女性がそ（れら）の行動に主として関わるという関係が認められる。

表11　日常生活における援助授受関係の性差（N＝649）

援助の内容	授与のみ群		受容のみ群		授受あり群		授受なし群		
	%	N	%	N	%	N	%	N	$\chi^2(3)$
(1)健康を気づかっての電話	27.2	97	4.5	16	17.4	62	51.0	182	49.18＊＊＊
	38.7	113	6.2	18	30.8	90	24.3	71	
(2)炊事洗濯などの身の回り代行	11.5	41	3.1	11	2.0	7	83.5	298	2.47
	11.6	34	1.4	4	2.7	8	84.2	246	
(3)入院時の介護	8.7	31	2.2	8	0.3	1	88.8	317	5.32
	11.3	33	0.3	1	0.3	1	88.0	257	
(4)旅行の誘い	20.7	74	14.8	53	17.9	64	46.5	166	5.07
	20.9	61	15.4	45	24.3	71	39.4	115	
(5)おかずや野菜のおすそ分け	6.7	24	7.6	27	9.5	34	76.2	272	91.05＊＊＊
	23.6	69	7.2	21	27.1	79	42.1	123	
(6)降雨時、留守宅の洗濯物とり入れ	13.2	47	0.8	3	0.8	3	85.2	304	12.36＊＊
	6.5	19	2.1	6	2.7	8	88.7	259	
(7)目的地への車での送迎	34.5	123	7.0	25	11.2	40	47.3	169	53.74＊＊＊
	16.8	49	23.3	68	6.5	19	53.4	156	
(8)講演会などの行事案内通知	13.7	49	14.3	51	12.6	45	59.4	212	3.47
	16.8	49	11.0	32	15.4	45	56.8	166	
(9)2、3日姿を見せなかった時の声かけ	9.8	35	4.2	15	2.0	7	84.0	300	31.96＊＊＊
	21.6	63	3.1	9	7.5	22	67.8	198	
(10)代わりの荷物持ち	13.4	48	0.8	3	0.8	2	85.2	304	18.10＊＊＊
	19.9	58	3.4	10	3.1	9	73.6	215	
(11)買い物の代行	12.3	44	1.4	5	4.5	16	81.8	292	8.36＊
	8.9	26	4.1	12	2.4	7	84.6	247	
(12)趣味のサークルなどへの勧誘	23.8	85	9.0	32	11.5	41	55.7	199	.09
	26.4	77	9.9	29	11.3	33	52.4	153	
(13)金銭の授与	7.6	27	0.6	2	1.7	6	90.2	322	.99
	7.2	21	1.0	3	1.0	3	90.8	265	
(14)宅配便の預かり	9.2	33	5.3	19	3.9	14	81.5	291	3.98
	11.6	34	3.4	10	6.2	18	78.8	230	
(15)病院への同行	16.8	60	2.5	9	2.2	8	78.4	280	2.18
	15.4	45	4.5	13	1.7	5	78.4	229	
(16)忘れ物の指摘	12.9	46	4.5	16	1.7	6	81.0	289	10.52＊
	18.2	53	5.8	17	4.8	14	71.2	208	
(17)車やバスでの席譲り	20.2	72	2.5	9	3.1	11	74.2	265	4.67
	25.0	73	4.1	12	4.1	12	66.8	195	
(18)話や相談への傾聴	21.6	77	2.2	8	4.5	16	71.7	256	36.60＊＊＊
	36.0	105	2.7	8	12.0	35	49.3	144	
(19)肩もみ	8.4	30	2.8	10	2.5	9	86.3	308	4.21
	5.5	16	4.8	14	1.7	5	88.0	257	
(20)食べやすいものの調理	3.4	12	3.1	11	2.0	7	91.6	327	29.68＊＊＊
	14.7	43	1.4	4	0.7	2	83.2	243	
(21)遊びや買い物などへの同伴	18.5	66	2.2	8	5.3	19	73.9	264	19.12＊＊＊
	18.2	53	6.5	19	12.3	36	63.0	184	
(22)おみやげの授与	18.2	65	9.8	35	23.5	84	48.5	173	56.16＊＊＊
	30.5	89	6.5	19	40.4	118	22.6	66	
(23)留守時、飼っている生き物の世話	5.0	18	2.0	7	1.4	5	91.6	327	1.99
	6.2	18	3.1	9	0.7	2	90.1	263	
(24)駅までの見送り、出迎え	21.6	77	2.8	10	5.6	20	70.0	250	17.22＊＊
	12.7	37	7.9	23	3.8	11	75.7	221	
(25)よい病院などの情報提供	7.8	28	4.5	16	2.2	8	85.4	305	17.67＊＊
	15.8	46	4.1	12	6.2	18	74.0	216	
(26)干渉しあわないような配慮	20.4	73	1.7	6	5.3	19	72.5	259	42.79＊＊＊
	37.0	108	1.4	4	13.4	39	48.3	141	

注：各援助項目は上段は男性を、下段は女性を示している。
有意な性差が見られたものには、（濃いもの：p＜.01、薄いもの p＜.05）網掛けがしてある。
＊＊＊ p＜.001、＊＊ p＜.01、＊ p＜.05

(3) 年代や健康状況による援助行動の差異（χ^2 検定の結果）

① 年代

日頃行っている援助行動に加齢がどのように影響するかを明らかにするために、26 項目の援助行動それぞれの授与経験率（表 12）、要請経験率（表 13）、受容経験率（表 14）を若年高齢者と老年高齢者の年代別に求めた。そして、それぞれの行動の経験率に年代差があるかどうかを見るために χ^2 検定を行い、その結果をそれぞれの表に示した。

それらの表によると、年代差の見られたのは、援助授与では、26 項目のうち 5 援助において、援助要請では、2 援助において、援助受容では、4 援助においてであった。

まず、援助授与で若年高齢者群の方が老年高齢者群よりも有意に高い経験率を示したのは、「おかずや野菜のおすそ分け」（若年 37.2 %－老年 27.6 %）、「車やバスでの席譲り」（28.5 %－21.5 %）、「遊びや買い物などへの同伴」（33.3 %－20.9 %）、「留守時、飼っている生き物の世話」（10.0 %－4.0 %）、「駅までの見送り、出迎え」（26.5 %－17.8 %）においてであった。なお、援助授与において、老年高齢者群の方が若年高齢者群よりも有意に高い経験率を示した援助はなかった。

次に、援助要請で若年高齢者群の方が老年高齢者群よりも有意に高い経験率を示したのは、「趣味のサークルなどへの勧誘」（22.0 %－14.1 %）と「遊びや買い物などへの同伴」（14.2 %－8.9 %）においてであった。なお、要請においても、老年高齢者群の方が若年高齢者群よりも有意に高い経験率を示した援助はなかった。

最後に、援助受容で若年高齢者群の方が老年高齢者群よりも有意に高い経験率を示したのは、「話しや相談などへの傾聴」（12.6 %－7.7 %）と「遊びや買い物などへの同伴」（15.9 %－9.5 %）においてであった。逆に、老年高齢者群の方が若年高齢者群よりも有意に高い経験率を示したのは、「健康を気づかっての電話」（24.6 %－32.5 %）と「車やバスでの席譲り」（4.2 %－8.9 %）においてであった。

以上の結果、日常生活における援助行動は、若年高齢者群と老年高齢者群とで部分的に違いが見られるが、それは顕著な相違でないことが明らかとなった。老年高齢者群の方が若年高齢者群よりも他者に援助を要請していることは必ずしもなく、加齢とともに高齢者は益々援助の受け手になるといった一般的な考えとは異なる結果であった。老年高齢者群は若年高齢者群よりも「健康を気づかっての電話」や「車やバスでの席譲り」といった援助を一層受容しており、加齢に従って精神的、身体的負担への気遣いからの援助受容の増すことが示唆された。しかし、老年高齢者群が他者にそうした援助をあまり求めていない実態も明らかとなった。

表12 日常生活における援助授与行動の年代差（N＝635）

援助の内容	若年群		老年群		
	%	N	%	N	$\chi^2(1)$
(1)健康を気づかっての電話	52.1	161	58.6	191	2.70
(2)炊事洗濯などの身の回り代行	16.5	51	11.7	38	3.09＋
(3)入院時の介護	12.0	37	8.6	28	1.99
(4)旅行への誘い	42.1	130	40.8	133	.11
(5)おかずや野菜のおすそ分け	37.2	115	27.6	90	6.7＊
(6)降雨時、留守宅の洗濯物とり入れ	12.6	39	11.0	36	.38
(7)目的地への車での送迎	39.8	123	32.5	106	3.66＋
(8)講演会などの行事案内通知	31.1	96	27.0	88	1.28
(9)2、3日姿を見せなかった時の声かけ	19.4	60	19.6	64	.01
(10)代わりの荷物持ち	20.1	62	16.0	52	1.82
(11)買い物の代行	16.5	51	12.6	41	1.99
(12)趣味のサークルなどへの勧誘	36.2	112	35.9	117	.01
(13)金銭の授与	7.8	24	9.5	31	.61
(14)宅配便の預かり	15.9	49	14.4	47	.26
(15)病院への同行	20.4	63	17.2	56	1.07
(16)忘れ物の指摘	19.1	59	17.8	58	.18
(17)車やバスでの席譲り	28.5	88	21.5	70	4.17＊
(18)話しや相談などへの傾聴	39.2	121	33.4	109	2.25
(19)肩もみ	9.7	30	9.5	31	.01
(20)食べやすいものの調理	11.3	35	8.3	27	1.67
(21)遊びや買い物などへの同伴	33.3	103	20.9	68	12.55＊＊＊
(22)おみやげの授与	56.0	173	53.4	174	.44
(23)留守時、飼っている生き物の世話	10.0	31	4.0	13	8.99＊＊
(24)駅までの見送り、出迎え	26.5	82	17.8	58	7.06＊＊
(25)よい病院などの情報提供	16.8	52	14.4	47	.70
(26)干渉しあわないような配慮	38.8	120	34.7	113	1.19

注：各援助を授与した人の割合を示す（単位は%）。
有意な年代差が見られたものには、（濃いもの：p＜.01、薄いもの：p＜.05）網掛けがしてある。
＊＊＊ p＜.001、＊＊ p＜.01、＊ p＜.05、＋p＜.10

次に、若年高齢者と老年高齢者とで日頃行っている援助行動の授与と受容の対応関係にどのような違いがあるかを明らかにするために、26項目の援助行動それぞれを、授与のみ経験した人、受容のみ経験した人、授与と受容の両方を経験した人、授与と受容の両方を経験していない人の4群と年代を組み合わせて求めた（表15）。加えて、それぞれの群間に有意差があるかどうかを見るために行った χ^2 検定の結果も示した。

この表によると、有意な関連性が認められたのは、26項目のうち5つの援助行動においてであった。

それらの行動を個別に見ると、「おかずや野菜のおすそ分け」の経験率は、授与のみ経験

表 13　日常生活における援助要請行動の年代差（N＝635）

援助の内容	若年群		老年群		
	%	N	%	N	$\chi^2(1)$
(1)健康を気づかっての電話	17.2	53	21.8	71	2.16
(2)炊事洗濯などの身の回り代行	3.6	11	4.0	13	.80
(3)入院時の介護	2.9	9	3.4	11	.11
(4)旅行への誘い	20.1	62	19.3	63	.06
(5)おかずや野菜のおすそ分け	13.3	41	8.6	28	3.59＋
(6)降雨時、留守宅の洗濯物とり入れ	2.3	7	3.1	10	.39
(7)目的地への車での送迎	20.7	64	17.5	57	1.07
(8)講演会などの行事案内通知	14.2	44	13.5	44	.07
(9)２、３日姿を見せなかった時の声かけ	7.8	24	7.7	25	.00
(10)代わりの荷物持ち	4.2	13	3.7	12	.17
(11)買い物の代行	7.8	24	6.1	20	.66
(12)趣味のサークルなどへの勧誘	22.0	68	14.1	46	6.71＊
(13)金銭の授与	2.3	7	1.5	5	.46
(14)宅配便の預かり	7.8	24	8.3	27	.06
(15)病院への同行	6.1	19	5.5	18	.11
(16)忘れ物の指摘	8.7	27	4.9	16	3.69＋
(17)車やバスでの席譲り	5.2	16	4.0	13	.52
(18)話しや相談などへの傾聴	12.3	38	9.5	31	1.27
(19)肩もみ	6.5	20	4.9	16	.73
(20)食べやすいものの調理	2.3	7	3.4	11	.71
(21)遊びや買い物などへの同伴	14.2	44	8.9	29	4.45＊
(22)おみやげの授与	11.3	35	14.7	48	1.61
(23)留守時、飼っている生き物の世話	5.5	17	3.4	11	1.70
(24)駅までの見送り、出迎え	13.9	43	9.5	31	2.99＋
(25)よい病院などの情報提供	12.9	40	8.9	29	2.69
(26)干渉しあわないような配慮	14.2	44	14.7	48	.03

注：各援助を要請した人の割合を示す（単位は%）。
有意な年代差が見られたものには、（濃いもの：p＜.01、薄いもの：p＜.05）網掛けがしてある。
＊＊＊ p＜.001、＊＊ p＜.01、＊ p＜.05、＋p＜.10

した人（若年 19.7％－老年 10.1％）においては、老年高齢者群よりも若年高齢者群の方が高いが、受容のみ経験した人（5.2％－9.2％）においては、逆に、若年高齢者群よりも老年高齢者群の方が高い。なお、授与と受容の両方を経験していない人(57.6％－63.2％）や授与と受容の両方を経験した人（17.5％－17.5％）においては、年代間の有意差は認められない。

「車やバスでの席譲り」の経験率は、授与のみ経験した人（25.9％－17.5％）においては、老年高齢者群よりも若年高齢者群の方が高いが、受容のみ経験した人(1.6％－4.9％）においては、逆に、若年高齢者群よりも老年高齢者群の方が高い。なお、授与と受容の両

表14 日常生活における援助受容行動の年代差（N＝635）

援助の内容	若年群		老年群		
	%	N	%	N	$\chi^2(1)$
(1)健康を気づかっての電話	24.6	76	32.5	106	4.87＊
(2)炊事洗濯などの身の回り代行	4.9	15	4.3	14	.11
(3)入院時の介護	1.0	3	2.1	7	1.42
(4)旅行への誘い	34.3	106	37.1	121	.55
(5)おかずや野菜のおすそ分け	22.7	70	26.7	87	1.39
(6)降雨時、留守宅の洗濯物とり入れ	3.2	10	2.5	8	.35
(7)目的地への車での送迎	21.4	66	24.8	81	1.08
(8)講演会などの行事案内通知	27.2	84	27.0	88	.00
(9)2、3日姿を見せなかった時の声かけ	8.7	27	7.7	25	.24
(10)代わりの荷物持ち	2.9	9	4.3	14	.87
(11)買い物の代行	6.8	21	5.8	19	.25
(12)趣味のサークルなどへの勧誘	22.7	70	19.0	62	1.27
(13)金銭の授与	1.3	4	2.5	8	1.15
(14)宅配便の預かり	10.4	32	8.3	27	.81
(15)病院への同行	5.5	17	5.5	18	.00
(16)忘れ物の指摘	7.1	22	8.9	29	.68
(17)車やバスでの席譲り	4.2	13	8.9	29	5.65＊
(18)話しや相談などへの傾聴	12.6	39	7.7	25	4.29＊
(19)肩もみ	5.8	18	5.5	18	.03
(20)食べやすいものの調理	2.9	9	3.7	12	.29
(21)遊びや買い物などへの同伴	15.9	49	9.5	31	5.81＊
(22)おみやげの授与	37.2	115	41.4	135	1.17
(23)留守時、飼っている生き物の世話	4.2	13	2.8	9	.99
(24)駅までの見送り、出迎え	11.0	34	8.6	28	1.05
(25)よい病院などの情報提供	7.1	22	9.2	30	.92
(26)干渉しあわないような配慮	10.4	32	10.4	34	.00

注：各援助を受容した人の割合を示す（単位は%）。
有意な傾向の年代差が見られたものには（薄いもの：p＜.05）網掛けがしてある。
＊＊＊ p＜.001、＊＊ p＜.01、＊ p＜.05、＋p＜.10

方を経験した人（2.6％－4.0％）や授与と受容の両方を経験していない人（69.9％－73.6％）においては、年代間の有意差は認められない。

「遊びや買い物などへの同伴」の経験率は、授与と受容の両方を経験していない人（61.8％－75.5％）においては、若年高齢者群よりも老年高齢者群の方が高いが、授与のみ経験した人（22.3％－15.0％）や授与と受容の両方を経験した人（11.0％－5.8％）においては、逆に、老年高齢者群よりも若年高齢者群の方が高い。なお、受容のみ経験した人(4.9％－3.7％）においては、年代間の有意差は認められない。

「留守時、飼っている生き物の世話」の経験率は、授与と受容の両方を経験していない人

表 15　日常生活における援助授受関係の年代差（N＝635）

援助の内容	授与のみ群		受容のみ群		授受あり群		授受なし群		
	%	N	%	N	%	N	%	N	$\chi^2(3)$
(1)健康を気づかっての電話	32.7	101	5.2	16	19.4	60	42.7	132	6.01
	31.3	102	5.2	17	27.3	89	36.2	118	
(2)炊事洗濯などの身の回り代行	13.6	42	1.9	6	2.9	9	81.6	252	3.74
	10.1	33	2.8	9	1.5	5	85.6	279	
(3)入院時の介護	12.0	37	1.0	3	0.0	0	87.1	269	4.99
	8.0	26	1.5	5	0.6	2	89.9	293	
(4)旅行の誘い	23.6	73	15.9	49	18.4	57	42.1	130	4.21
	18.1	59	14.4	47	22.7	74	44.8	146	
(5)おかずや野菜のおすそ分け	19.7	61	5.2	16	17.5	54	57.6	178	14.28＊＊
	10.1	33	9.2	30	17.5	57	63.2	206	
(6)降雨時、留守宅の洗濯物とり入れ	11.0	34	1.6	5	1.6	5	85.8	265	1.06
	9.5	31	0.9	3	1.5	5	88.0	287	
(7)目的地への車での送迎	29.8	92	11.3	35	10.0	31	48.9	151	5.89
	24.5	80	16.9	55	8.0	26	50.6	165	
(8)講演会などの行事案内通知	17.8	55	13.9	43	13.3	41	55.0	170	4.71
	12.3	40	12.3	40	14.7	48	60.7	198	
(9)2、3日姿を見せなかった時の声かけ	15.5	48	4.9	15	3.9	12	75.7	234	2.36
	14.7	48	2.8	9	4.9	16	77.6	253	
(10)代わりの荷物持ち	18.8	58	1.6	5	1.3	4	78.3	242	3.16
	14.1	46	2.5	8	1.8	6	81.6	266	
(11)買い物の代行	11.7	36	1.9	6	4.9	15	81.6	252	4.20
	10.1	33	3.4	11	2.5	8	84.0	274	
(12)趣味のサークルなどへの勧誘	23.9	74	10.4	32	12.3	38	53.4	165	1.29
	25.5	83	8.6	28	10.4	34	55.5	181	
(13)金銭の授与	6.5	20	0.0	0	1.3	4	92.2	285	4.65
	8.3	27	1.2	4	1.2	4	89.3	291	
(14)宅配便の預かり	10.4	32	4.9	15	5.5	17	79.3	245	.96
	10.4	34	4.3	14	4.0	13	81.3	265	
(15)病院への同行	18.8	58	3.9	12	1.6	5	75.7	234	2.73
	14.7	48	3.1	10	2.5	8	79.8	260	
(16)忘れ物の指摘	16.5	51	4.5	14	2.6	8	76.4	236	1.89
	14.4	47	5.5	18	3.4	11	76.7	250	
(17)車やバスでの席譲り	25.9	80	1.6	5	2.6	8	69.9	216	11.63＊＊
	17.5	57	4.9	16	4.0	13	73.6	240	
(18)話や相談への傾聴	29.8	92	3.2	10	9.4	29	57.6	178	5.88
	27.3	89	1.5	5	6.1	20	65.0	212	
(19)肩もみ	7.8	24	3.9	12	1.9	6	86.4	267	.62
	7.1	23	3.1	10	2.5	8	87.4	285	
(20)食べやすいものの調理	10.4	32	1.9	6	1.0	3	86.7	268	2.39
	7.1	23	2.5	8	1.2	4	89.3	291	
(21)遊びや買い物などへの同伴	22.3	69	4.9	15	11.0	34	61.8	191	14.45＊＊
	15.0	49	3.7	12	5.8	19	75.5	246	
(22)おみやげの授与	25.9	80	7.1	22	30.1	93	36.9	114	2.60
	21.8	71	9.8	32	31.6	103	36.8	120	
(23)留守時、飼っている生き物の世話	8.4	26	2.6	8	1.6	5	87.4	270	9.24＊
	3.4	11	2.1	7	0.6	2	93.9	306	
(24)駅までの見送り、出迎え	21.7	67	6.1	19	4.9	15	67.3	208	9.69＊
	13.5	44	4.3	14	4.3	14	77.9	254	
(25)よい病院などの情報提供	12.9	40	3.2	10	3.9	12	79.9	247	2.33
	10.4	34	5.2	17	4.0	13	80.4	262	
(26)干渉しあわないような配慮	30.7	95	2.3	7	8.1	25	58.9	182	4.75
	25.2	82	0.9	3	9.5	31	64.4	210	

注：各援助項目は上段は若年高齢者を、下段は老年高齢者を示している。
有意な年代差が見られたものには、(濃いもの：p＜.01、薄いもの：p＜.05) 網掛けがしてある。
＊＊＊ p＜.001、＊＊ p＜.01、＊ p＜.05

(87.4％－93.9％)においては、若年高齢者群よりも老年高齢者群の方が高いが、授与のみ経験した人(8.4％－3.4％)においては、逆に、老年高齢者群よりも若年高齢者群の方が高い。なお、受容のみ経験した人(2.6％－2.1％)や授与と受容の両方を経験した人(1.6％－0.6％)においては、年代間の有意差は認められない。

「駅までの見送り、出迎え」の経験率は、授与と受容の両方を経験していない人(67.3％－77.9％)においては、若年高齢者群よりも老年高齢者群の方が有意に高いが、授与のみ経験した人(21.7％－13.5％)においては、逆に、老年高齢者群よりも若年高齢者群の方が高い。なお、受容のみ経験した人(6.1％－4.3％)や授与と受容の両方を経験した人(4.9％－4.3％)においては、年代間の有意差は認められない。

このように援助授受の対応関係についても、いくらかの年代差が認められた。そして、授与と受容の経験率が老年高齢者群よりも若年高齢者群の方が高い援助行動においては、若年高齢者がそ（れら）の行動に主として関わり、逆に、若年高齢者群よりも老年高齢者群の方が高い援助行動においては、老年高齢者がそ（れら）の行動に主として関わるという関係が認められた。

② 健康状況

前述のように、加齢とともに本調査回答者の健康度が低くなることが明らかにされているため、健康度に着目し、健康度の高い高齢者群と健康度の低い高齢者群との間に、援助行動でどのような違いがあるかを明らかにするために、26項目の援助行動の両群の授与経験率（表16)、要請経験率（表17)、受容経験率（表18）を求めた。そして、それぞれの行動の経験率に健康度差があるかどうかを見るために χ^2 検定を行い、その結果をそれぞれの表に示した。

これらの表によると、有意な健康度差が認められたのは、援助授与では、26の援助内容うち3援助において、援助要請では、2援助において、援助受容では、5援助においてであった。

まず、援助授与で健康高群の方が健康低群よりも有意に高い経験率を示したのは、「旅行への誘い」(健康高44.6％－健康低33.1％)、「講演会などの行事案内通知」(31.9％－21.5％)、「趣味のサークルなどへの勧誘」(40.4％－26.5％）においてであった。なお、援助授与においては、健康低群の方が健康高群よりも有意に高い経験率を示した援助行動はなかった。

次に、援助要請で健康高群の方が健康低群よりも有意に高い経験率を示した援助はなかったが、健康低群の方が健康高群よりも有意に高い経験率を示したのは、「健康を気づかっ

表 16　日常生活における援助授与行動の健康度差（N＝661）

援助の内容	健康高群		健康低群		
	%	N	%	N	$\chi^2(1)$
(1)健康を気づかっての電話	57.9	278	50.8	92	2.68
(2)炊事洗濯などの身の回り代行	14.4	69	12.7	23	.31
(3)入院時の介護	11.0	53	8.3	15	1.08
(4)旅行への誘い	44.6	214	33.1	60	7.08＊＊
(5)おかずや野菜のおすそ分け	32.5	156	29.3	53	.63
(6)降雨時、留守宅の洗濯物とり入れ	11.0	53	13.8	25	.97
(7)目的地への車での送迎	35.2	169	37.0	67	.19
(8)講演会などの行事案内通知	31.9	153	21.5	39	6.80＊＊
(9)２、３日姿を見せなかった時の声かけ	21.0	101	17.1	31	1.26
(10)代わりの荷物持ち	19.8	95	13.3	24	3.80＋
(11)買い物の代行	14.8	71	12.7	23	.47
(12)趣味のサークルなどへの勧誘	40.4	194	26.5	48	10.94＊＊
(13)金銭の授与	8.8	42	9.4	17	.07
(14)宅配便の預かり	15.8	76	14.9	27	.08
(15)病院への同行	18.1	87	18.2	33	.00
(16)忘れ物の指摘	20.0	96	14.4	26	2.77＋
(17)車やバスでの席譲り	28.1	135	21.0	38	3.46＋
(18)話しや相談などへの傾聴	36.9	177	34.3	62	.39
(19)肩もみ	9.4	45	8.8	16	.05
(20)食べやすいものの調理	11.0	53	6.6	12	2.89＋
(21)遊びや買い物などへの同伴	27.1	130	26.5	48	.02
(22)おみやげの授与	55.6	267	51.4	93	.95
(23)留守時、飼っている生き物の世話	7.3	35	5.0	9	1.14
(24)駅までの見送り、出迎え	22.7	109	21.0	38	.22
(25)よい病院などの情報提供	16.0	77	14.9	27	.13
(26)干渉しあわないような配慮	35.8	172	37.6	68	.17

注：各援助を授与した人の割合を示す（単位は%）。
有意な健康度差が見られたものには（濃いもの：p＜.01）網掛けがしてある。
＊＊＊ p＜.001、＊＊ p＜.01、＊ p＜.05、＋p＜.10

ての電話」（17.3％－27.1％）と「入院時の介護」（2.7％－6.1％）においてであった。

最後に、援助受容で健康高群の方が健康低群よりも有意に高い経験率を示した援助はなかったが、健康低群の方が健康高群よりも有意に高い経験率を示したのは、「健康を気づかっての電話」（25.4％－38.7％）、「入院時の介護」（0.8％－3.9％）、「病院への同行」（3.3％－10.5％）、「食べやすいものの調理」（2.7％－6.6％）、「よい病院などの情報提供」（6.0％－14.4％）においてであった。

以上の結果、日常生活における援助行動は、健康高群と健康低群とで異なることが明らかとなった。健康度の高い高齢者の方が健康度の低い高齢者よりも援助授与を一層経験し

表17　日常生活における援助要請行動の健康度差（N＝661）

援助の内容	健康高群		健康低群		
	%	N	%	N	$\chi^2(1)$
(1)健康を気づかっての電話	17.3	83	27.1	49	7.87＊＊
(2)炊事洗濯などの身の回り代行	3.3	16	5.5	10	1.67
(3)入院時の介護	2.7	13	6.1	11	4.26＊
(4)旅行への誘い	20.8	100	18.2	33	.55
(5)おかずや野菜のおすそ分け	10.0	48	13.3	24	1.44
(6)降雨時、留守宅の洗濯物とり入れ	2.7	13	2.8	5	.00
(7)目的地への車での送迎	17.1	82	22.7	41	2.69
(8)講演会などの行事案内通知	14.2	68	13.3	24	.09
(9)2、3日姿を見せなかった時の声かけ	7.7	37	8.8	16	.23
(10)代わりの荷物持ち	3.3	16	5.0	9	.97
(11)買い物の代行	6.3	30	8.3	15	.86
(12)趣味のサークルなどへの勧誘	19.2	92	15.5	28	1.21
(13)金銭の授与	1.7	8	3.3	6	1.72
(14)宅配便の預かり	9.2	44	7.2	13	.66
(15)病院への同行	5.2	25	7.7	14	1.51
(16)忘れ物の指摘	6.9	33	7.2	13	.02
(17)車やバスでの席譲り	5.2	25	5.5	10	.03
(18)話しや相談などへの傾聴	10.0	48	13.8	25	1.94
(19)肩もみ	6.3	30	3.9	7	1.41
(20)食べやすいものの調理	3.3	16	3.3	6	.00
(21)遊びや買い物などへの同伴	12.1	58	9.4	17	.94
(22)おみやげの授与	13.8	66	13.3	24	.03
(23)留守時、飼っている生き物の世話	4.0	19	5.0	9	.33
(24)駅までの見送り、出迎え	11.0	53	12.7	23	.36
(25)よい病院などの情報提供	10.0	48	14.9	27	3.16＋
(26)干渉しあわないような配慮	13.1	63	18.2	33	2.76＋

注：各援助を要請した人の割合を示す（単位は%）。
有意な健康度差が見られたものには、（濃いもの：p＜.01、薄いもの：p＜.05）網掛けがしてある。
＊＊＊ p＜.001、＊＊ p＜.01、＊ p＜.05、＋p＜.10

ている一方で、健康度の低い高齢者が健康度の高い高齢者よりも援助要請や援助受容といった被援助者の立場で援助行動を一層経験していた。また、「旅行への誘い」や「講演会などの行事案内通知」や「趣味のサークルなどへの勧誘」の要請率や受容率には健康度によって違いはないが、授与率においては健康度の高い高齢者群の方が健康度の低い高齢者群よりも経験率が高く、健康度の低い高齢者が率先して娯楽の誘いや社会参加といった積極的な他者との関わりに二の足を踏んでいる様子が窺われ、社会参加に健康状況が影響することが示唆された。

次に、健康度の高い高齢者と健康度の低い高齢者で日頃行っている援助授与と援助受容

表 18　日常生活における援助受容行動の健康度差（N＝661）

援助の内容	健康高群		健康低群		
	%	N	%	N	$\chi^2(1)$
(1)健康を気づかっての電話	25.4	122	38.7	70	11.21＊＊
(2)炊事洗濯などの身の回り代行	4.2	20	5.5	10	.56
(3)入院時の介護	0.8	4	3.9	7	7.39＊＊
(4)旅行への誘い	34.4	165	38.7	70	1.06
(5)おかずや野菜のおすそ分け	24.4	117	25.4	46	.08
(6)降雨時、留守宅の洗濯物とり入れ	3.1	15	2.8	5	.06
(7)目的地への車での送迎	21.7	104	27.6	50	2.61
(8)講演会などの行事案内通知	25.8	124	27.1	49	.10
(9)2、3日姿を見せなかった時の声かけ	8.1	39	9.4	17	.27
(10)代わりの荷物持ち	3.1	15	5.0	9	1.28
(11)買い物の代行	5.6	27	7.7	14	1.01
(12)趣味のサークルなどへの勧誘	21.9	105	17.7	32	1.41
(13)金銭の授与	1.9	9	3.3	6	1.23
(14)宅配便の預かり	9.2	44	9.9	18	.09
(15)病院への同行	3.3	16	10.5	19	13.45＊＊＊
(16)忘れ物の指摘	7.7	37	9.4	17	.50
(17)車やバスでの席譲り	6.0	29	9.4	17	2.28
(18)話しや相談などへの傾聴	10.0	48	11.0	20	.16
(19)肩もみ	6.3	30	4.4	8	.81
(20)食べやすいものの調理	2.7	13	6.6	12	5.55＊
(21)遊びや買い物などへの同伴	12.5	60	12.7	23	.01
(22)おみやげの授与	37.9	182	41.4	75	.69
(23)留守時、飼っている生き物の世話	3.5	17	3.3	6	.02
(24)駅までの見送り、出迎え	9.6	46	9.9	18	.02
(25)よい病院などの情報提供	6.0	29	14.4	26	11.94＊＊
(26)干渉しあわないような配慮	10.0	48	11.6	21	.36

注：各援助を受容した人の割合を示す（単位は%）。
有意な健康度差が見られたものには、（濃いもの：p＜.01、薄いもの p＜.05）網掛けがしてある。
＊＊＊ p＜.001、＊＊ p＜.01、＊ p＜.05、＋p＜.10

の対応関係にどのような違いがあるかを明らかにするために、26 項目の援助行動それぞれを、授与のみ経験した人、受容のみ経験した人、両方を経験した人、両方を経験していない人の 4 群と健康度を組み合わせて求めた（表 19）。加えて、それぞれの群間に健康度差があるかどうかを見るために行った χ^2 検定の結果も示した。

この表によると、有意な健康度差の見られたのは、26 項目のうち 8 つの援助行動においてであった。

それらの行動を個別に見ると、「健康を気づかっての電話」の経験率は、授与のみ経験した人においては、健康低群よりも健康高群の方が高いが（健康高 37.1 %－健康低 20.4 %）、

授与と受容の両方を経験した人（20.8％－30.4％）においては、逆に、健康高群よりも健康低群の方が高い。なお、受容のみ経験した人（4.6％－8.3％）や授与と受容の両方を経験していない人（37.5％－40.9％）においては、健康度による有意差はない。

「旅行の誘いの経験率」は、授与のみ経験した人においては、健康低群よりも健康高群の方が（22.9％－14.4％）高いが、受容のみ経験した人（12.7％－19.9％）においては、逆に、健康高群よりも健康低群の方が高い。なお、授与と受容の両方を経験した人（21.7％－18.8％）や授与と受容の両方を経験していない人（42.7％－47.0％）においては、健康度による有意差はない。

「講演会などの行事案内通知」の経験率は、授与のみ経験した人（17.9％－8.3％）においては、健康低群よりも健康高群の方が高いが、授与と受容の両方を経験していない人（56.3％－64.6％）においては、逆に、健康高群よりも健康低群の方が高い。なお、受容のみ経験した人（11.9％－13.8％）や授与と受容の両方を経験した人（14.0％－13.3％）においては、健康度による有意差はない。

「趣味やサークルなどへの勧誘」の経験率は、授与のみ経験した人（28.3％－17.1％）においては、健康低群よりも健康高群の方が高いが、授与と受容の両方を経験していない人（49.8％－65.2％）においては、逆に、健康高群よりも健康低群の方が高い。なお、受容のみ経験した人（9.8％－8.3％）や授与も受容も両方経験した人（12.1％－9.4％）においては、健康度による有意差はない。

「病院への同行」の経験率では、受容のみ経験した人（1.9％－7.2％）においては、健康高群よりも健康低群の方が高いが、授与のみ経験した人（16.7％－14.9％）、授与と受容の両方を経験した人（1.5％－3.3％）、授与と受容の両方を経験していない人（80.3％－74.6％）においては、健康度による有意差はない。

「車やバスでの席譲り」の経験率は、授与のみ経験した人（25.2％－14.9％）においては、健康低群よりも健康高群の方が高いが、受容のみ経験した人（3.1％－3.3％）、授与と受容の両方を経験した人（2.9％－6.1％）、授与と受容の両方を経験していない人（68.8％－75.7％）においては、健康度による有意差はない。

「食べやすいものの調理」の経験率は、授与のみ経験した人（10.0％－3.9％）においては、健康低群よりも健康高群の方が高いが、受容のみ経験した人（1.7％－3.9％）、授与と受容の両方を経験した人（1.0％－2.8％）、授与と受容の両方を経験していない人（87.3％－89.5％）においては、健康度による有意差はない。

「よい病院などの情報提供」の経験率では、受容のみ経験した人（2.5％－8.8％）にお

表 19　日常生活における援助授受関係の健康度差（N＝641）

援助の内容	授与のみ群		受容のみ群		授受あり群		授受なし群		
	%	N	%	N	%	N	%	N	χ^2
(1)健康を気づかっての電話	37.1	178	4.6	22	20.8	100	37.5	180	19.92＊＊＊
	20.4	37	8.3	15	30.4	55	40.9	74	
(2)炊事洗濯などの身の回り代行	12.3	59	2.1	10	2.1	10	83.5	401	1.17
	9.9	18	2.8	5	2.8	5	84.5	153	
(3)入院時の介護	11.0	53	0.8	4	0.0	0	88.1	423	.88＊
	7.2	13	2.8	5	1.1	2	89.0	161	
(4)旅行の誘い	22.9	110	12.7	61	21.7	104	42.7	205	10.36＊
	14.4	26	19.9	36	18.8	34	47.0	85	
(5)おかずや野菜のおすそ分け	15.6	75	7.5	36	16.9	81	60.0	288	1.72
	11.6	21	7.7	14	17.7	32	63.0	114	
(6)降雨時、留守宅の洗濯物とり入れ	9.4	45	1.5	7	1.7	8	87.5	420	1.21
	12.2	22	1.1	2	1.7	3	85.1	154	
(7)目的地への車での送迎	27.3	131	13.8	66	7.9	38	51.0	245	3.92
	24.9	45	15.5	28	12.2	22	47.5	86	
(8)講演会などの行事案内通知	17.9	86	11.9	57	14.0	67	56.3	270	10.00＊
	8.3	15	13.8	25	13.3	24	64.6	117	
(9)2、3日姿を見せなかった時の声かけ	16.5	79	3.5	17	4.6	22	75.4	362	2.06
	12.2	22	4.4	8	5.0	9	78.5	142	
(10)代わりの荷物持ち	18.3	88	1.7	8	1.5	7	78.5	377	6.00
	11.0	20	2.8	5	2.2	4	84.0	152	
(11)買い物の代行	11.3	54	2.1	10	3.5	17	83.1	399	2.39
	8.8	16	3.9	7	3.9	7	83.4	151	
(12)趣味のサークルなどへの勧誘	28.3	136	9.8	47	12.1	58	49.8	239	13.46＊＊
	17.1	31	8.3	15	9.4	17	65.2	118	
(13)金銭の授与	7.7	37	0.8	4	1.0	5	90.4	434	2.92
	6.6	12	0.6	1	2.8	5	90.1	163	
(14)宅配便の預かり	11.0	53	4.4	21	4.8	23	79.8	383	.49
	9.4	17	4.4	8	5.5	10	80.7	146	
(15)病院への同行	16.7	80	1.9	9	1.5	7	80.0	384	14.17＊＊
	14.9	27	7.2	13	3.3	6	74.6	135	
(16)忘れ物の指摘	16.7	80	4.4	21	3.3	16	75.6	363	3.88
	11.6	21	6.6	12	2.8	5	79.0	143	
(17)車やバスでの席譲り	25.2	121	3.1	15	2.9	14	68.8	330	10.60＊
	14.9	27	3.3	6	6.1	11	75.7	137	
(18)話や相談への傾聴	29.2	140	2.3	11	7.7	37	60.8	292	.75
	26.0	47	2.8	5	8.3	15	63.0	114	
(19)肩もみ	6.7	32	3.5	17	2.7	13	87.1	418	3.41
	8.3	15	3.9	7	0.6	1	87.3	158	
(20)食べやすいものの調理	10.0	48	1.7	8	1.0	5	87.3	419	11.39＊
	3.9	7	3.9	7	2.8	5	89.5	162	
(21)遊びや買い物などへの同伴	18.3	88	3.8	18	8.8	42	69.2	332	.66
	18.8	34	5.0	9	7.7	14	68.5	124	
(22)おみやげの授与	25.8	124	8.1	39	29.8	143	36.3	174	4.27
	18.2	33	8.3	15	33.1	60	40.3	73	
(23)留守時、飼っている生き物の世話	6.0	29	2.3	11	1.3	6	90.4	434	1.39
	4.4	8	2.8	5	0.6	1	92.3	167	
(24)駅までの見送り、出迎え	17.7	85	4.6	22	5.0	24	72.7	349	.97
	17.1	31	6.1	11	3.9	7	72.9	132	
(25)よい病院などの情報提供	12.5	60	2.5	12	3.5	17	81.5	391	15.27＊＊
	9.4	17	8.8	16	5.5	10	76.2	138	
(26)干渉しあわないような配慮	27.5	132	1.7	8	8.3	40	62.5	300	1.00
	27.1	49	1.1	2	10.5	19	61.3	111	

注：各援助項目は上段は健康高群を、下段は健康低群を示している。
有意な健康度差が見られたものには、（濃いもの：p＜.01、薄いもの：p＜.05）網掛けがしてある。
＊＊＊ p＜.001、＊＊ p＜.01、＊ p＜.05、p＜.10

いては、健康高群よりも健康低群の方が高いが、授与のみ経験した人（12.5％－9.4％）、授与と受容の両方を経験した人（3.5％－5.5％）、授与と受容の両方を経験していない人（81.5％－76.2％）においては、健康度による有意差はない。

このように援助授受の対応関係についても、いくらかの健康度差が認められた。そして、授与と受容の経験率が健康低群よりも健康高群の方が高い援助行動においては、健康度の高い高齢者がそ（れら）の行動に主として関わり、逆に、健康高群よりも健康低群の方が高い援助行動においては、健康度の低い高齢者がそ（れら）の行動に主として関わるという関係が認められた。

(4) ボランティア活動経験の有無による援助行動の差異（χ^2検定の結果）

日頃行っている援助行動に以前のボランティア活動経験がどのような影響を与えているかを明らかにするために、26項目の援助行動の授与経験率（表20）、要請経験率（表21）、受容経験率（表22）をボランティア活動経験群別に、つまり、「過去にボランティア活動を行ったことがある」あるいは「現在ボランティア活動している」とした者をボランティア経験あり群（N＝479、74.7％）、「ボランティア活動を行ったことがない」とした者をボランティア経験なし群（N＝162、25.3％）別に求めた。そして、それぞれの行動の経験率に経験差があるかどうかを見るためにχ^2検定を行い、その結果をそれぞれの表に示した。

それらの表によると、有意な経験差が認められたのは、援助授与では、26の援助内容うち9援助において、援助要請では、6援助において、援助受容では、2援助においてであった。

まず、援助授与でボランティア経験あり群の方がボランティア経験なし群よりも有意に高い経験率を示したのは、「健康を気づかっての電話」（経験あり59.3％－経験なし49.4％）、「おかずや野菜のおすそ分け」（34.7％－24.7％）、「目的地への車での送迎」（38.8％－29.0％）、「講演会などの行事案内通知」（32.4％－19.1％）、「2、3日姿を見せなかった時の声かけ」（22.3％－14.8％）、「趣味やサークルなどへの勧誘」（40.5％－22.8％）、「病院への同行」（20.3％－12.3％）、「話しや相談などへの傾聴」（38.6％－29.6％）、「おみやげの授与」（57.4％－46.3％）においてであった。なお、援助授与においては、ボランティア経験なし群の方がボランティア経験あり群よりも有意に高い経験率を示した援助行動はなかった。

次に、援助要請でボランティア経験あり群の方がボランティア経験なし群よりも有意に高い経験率を示したのは、「健康を気づかっての電話」（22.1％－14.2％）、「旅行への誘い」

（21.5％－14.2％）、「おかずや野菜のおすそ分け」（12.5％－4.9％）、「目的地への車での送迎」（21.1％－13.0％）、「講演会などの行事案内通知」（15.4％－9.3％）、「車やバスでの席譲り」（6.7％－1.9％）においてであった。なお、援助要請においても、ボランティア経験なし群の方がボランティア経験あり群よりも有意に高い経験率を示した援助行動はなかった。

最後に、援助受容でボランティア経験あり群の方がボランティア経験なし群よりも有意に高い経験率を示したのは、「講演会などの行事案内通知」（28.0％－19.8％）と「おみやげの授与」（42.2％－29.0％）においてであった。なお、援助受容においても、ボランティア経験なし群の方がボランティア経験群よりも有意に高い経験率を示した援助行動はなかった。

以上の結果、援助の授与、要請、受容のいずれの経験率も、ボランティア経験のある高齢者の方がボランティア経験のない高齢者より高かった。つまり、近隣社会においてボランティア経験のある者がいずれの場合も援助に積極的に関わっている一方で、ボランティア経験のない者が消極的であることが示唆された。特に、援助授与と援助要請の経験率は、ボランティア経験のある高齢者の方がボランティア経験のない高齢者よりも高かったが、援助受容の経験率では、ボランティア活動経験の有無で顕著な違いは見られなかった。つまり、以前のボランティア活動経験は、援助受容においてよりも、援助授与や援助要請の意思決定において、より積極的な方向へと影響を及ぼすことが窺われた。

次に、ボランティア経験のある人とボランティア経験のない人で日頃行っている援助行動の授与と受容の対応関係にどのような違いがあるかを明らかにするために、26 項目の援助行動それぞれを、授与のみ経験した人、受容のみ経験した人、両方を経験した人、両方を経験していない人の 4 群とボランティア経験を組み合わせて求めた(表 23)。加えて、それぞれの群間にボランティア経験差があるかどうかを見るために χ^2 検定を行い、その結果も示した。

この表によると、有意なボランティア経験差の見られたのは、26 項目のうち 3 つの援助行動においてであった。

それらの行動を個別に見ると、「講演会などの行事案内通知」の経験率は、授与も受容も両方経験した人（15.7％－7.4％）においては、ボランティア経験なし群よりもボランティア経験あり群の方が高いが、授与と受容の両方を経験していない人（55.3％－68.5％）においては、逆に、ボランティア経験あり群よりもボランティア経験なし群の方が高い。なお、授与のみ経験した人（16.7％－11.7％）や受容のみ経験した人（12.3％－12.3％）

表20 日常生活における援助授与行動のボランティア経験差（N＝641）

援助の内容	経験あり群		経験なし群		
	%	N	%	N	$\chi^2(1)$
(1)健康を気づかっての電話	59.3	284	49.4	80	4.84＊
(2)炊事洗濯などの身の回り代行	13.4	64	15.4	25	.43＋
(3)入院時の介護	10.4	50	9.9	16	.04
(4)旅行への誘い	43.6	209	35.2	57	3.56＋
(5)おかずや野菜のおすそ分け	34.7	166	24.7	40	5.51＊
(6)降雨時、留守宅の洗濯物とり入れ	10.4	50	15.4	25	2.92
(7)目的地への車での送迎	38.8	186	29.0	47	5.04＊
(8)講演会などの行事案内通知	32.4	155	19.1	31	10.28＊＊
(9)2、3日姿を見せなかった時の声かけ	22.3	107	14.8	24	4.21＊
(10)代わりの荷物持ち	18.2	87	17.9	29	.01
(11)買い物の代行	14.8	71	11.7	19	.96
(12)趣味のサークルなどへの勧誘	40.5	194	22.8	37	16.38＊＊＊
(13)金銭の授与	9.0	43	9.3	15	.01
(14)宅配便の預かり	16.3	78	13.0	21	1.02
(15)病院への同行	20.3	97	12.3	20	5.07＊
(16)忘れ物の指摘	19.6	94	14.2	23	2.39
(17)車やバスでの席譲り	28.8	138	21.0	34	3.77＋
(18)話しや相談などへの傾聴	38.6	185	29.6	48	4.23＊
(19)肩もみ	9.2	44	9.9	16	.07
(20)食べやすいものの調理	10.9	52	7.4	12	1.60
(21)遊びや買い物などへの同伴	27.1	130	26.5	43	.02
(22)おみやげの授与	57.4	275	46.3	75	6.03＊
(23)留守時、飼っている生き物の世話	7.3	35	4.9	8	1.09
(24)駅までの見送り、出迎え	23.8	114	19.8	32	1.13
(25)よい病院などの情報提供	17.3	83	12.3	20	2.23
(26)干渉しあわないような配慮	35.7	171	39.5	64	.76

注：各援助を授与した人の割合を示す（単位は%）。
有意なボランティア経験差が見られたものには、(濃いもの：p＜.01、薄いもの：p＜.05)網掛けがしてある。
＊＊＊ p＜.001、＊＊ p＜.01、＊ p＜.05、＋p＜.10

においては、経験の有無による有意差は認められない。

「趣味のサークルなどへの勧誘」の経験率は、授与のみ経験した人（27.8％－15.4％）においては、ボランティア経験なし群よりもボランティア経験あり群の方が高いが、授与と受容の両方を経験していない人（50.1％－67.9％）においては、逆に、ボランティア経験あり群よりもボランティア経験なし群の方が高い。なお、授与も受容も両方経験した人（12.7％－7.4％）や受容のみ経験した人（9.4％－9.3％）においては、経験の有無による有意差は認められない。

「おみやげの授受」の経験率は、授与も受容も両方経験した人（33.4％－22.2％）にお

表21　日常生活における援助要請行動のボランティア経験差（N＝641）

援助の内容	経験あり群		経験なし群		
	%	N	%	N	$\chi^2(1)$
(1)健康を気づかっての電話	22.1	106	14.2	23	4.74＊
(2)炊事洗濯などの身の回り代行	4.2	20	2.5	4	.98
(3)入院時の介護	3.8	18	3.7	6	.00
(4)旅行への誘い	21.5	103	14.2	23	4.09＊
(5)おかずや野菜のおすそ分け	12.5	60	4.9	8	7.35＊＊
(6)降雨時、留守宅の洗濯物とり入れ	2.7	13	1.9	3	.37
(7)目的地への車での送迎	21.1	101	13.0	21	5.18＊
(8)講演会などの行事案内通知	15.4	74	9.3	15	3.88＊
(9)2、3日姿を見せなかった時の声かけ	7.7	37	8.0	13	.02
(10)代わりの荷物持ち	3.5	17	4.9	8	.62
(11)買い物の代行	7.3	35	6.2	10	.24
(12)趣味のサークルなどへの勧誘	18.6	89	14.8	24	1.18
(13)金銭の授与	2.1	10	1.9	3	.03
(14)宅配便の預かり	9.4	45	6.2	10	1.60
(15)病院への同行	6.3	30	4.9	8	.38
(16)忘れ物の指摘	7.7	37	4.9	8	1.44
(17)車やバスでの席譲り	6.7	32	1.9	3	5.47＊
(18)話しや相談などへの傾聴	12.1	58	9.3	15	.97
(19)肩もみ	5.0	24	7.4	12	1.31
(20)食べやすいものの調理	3.1	15	3.7	6	.13
(21)遊びや買い物などへの同伴	12.3	59	8.0	13	2.24
(22)おみやげの授与	15.0	72	9.3	15	3.44＋
(23)留守時、飼っている生き物の世話	4.4	21	3.7	6	.14
(24)駅までの見送り、出迎え	12.7	61	9.3	15	1.40
(25)よい病院などの情報提供	12.7	61	7.4	12	3.41＋
(26)干渉しあわないような配慮	14.4	69	14.8	24	.02

注：各援助を要請した人の割合を示す（単位は%）。
有意なボランティア経験差が見られたものには、(濃いもの：p＜.01、薄いもの：p＜.05)網掛けがしてある。
＊＊＊ p＜.001、＊＊ p＜.01、＊ p＜.05、＋p＜.10

いては、ボランティア経験なし群よりもボランティア経験あり群の方が高いが、授与と受容の両方を経験していない人（33.8％－46.9％）においては、ボランティア経験あり群よりもボランティア経験なし群の方が高い。なお、授与のみ経験した人（24.0％－24.1％）や受容のみ経験した人（8.8％－6.8％）においては、経験の有無による有意差は認められない。

このように援助授受の対応関係についても、いくらかのボランティア経験差が認められた。そして、授与と受容の経験率が経験なし群よりも経験あり群の方が高い援助行動においては、ボランティア経験のある高齢者がそ（れら）の行動に主として関わり、逆に、経

表22 日常生活における援助受容行動のボランティア経験差（N＝641）

援助の内容	経験あり群		経験なし群		
	%	N	%	N	$\chi^2(1)$
(1)健康を気づかっての電話	29.9	143	29.0	47	.04
(2)炊事洗濯などの身の回り代行	4.4	21	4.9	8	.09
(3)入院時の介護	1.9	9	1.2	2	.30
(4)旅行への誘い	36.7	176	31.5	51	1.47
(5)おかずや野菜のおすそ分け	25.9	124	22.2	36	.87
(6)降雨時、留守宅の洗濯物とり入れ	3.1	15	2.5	4	.19
(7)目的地への車での送迎	24.8	119	19.8	32	1.74
(8)講演会などの行事案内通知	28.0	134	19.8	32	4.26＊
(9)2、3日姿を見せなかった時の声かけ	9.0	43	7.4	12	.38
(10)代わりの荷物持ち	4.0	19	2.5	4	.79
(11)買い物の代行	6.3	30	6.2	10	.00
(12)趣味のサークルなどへの勧誘	22.1	106	16.7	27	2.20
(13)金銭の授与	2.9	14	0.6	1	2.82＋
(14)宅配便の預かり	10.0	48	8.6	14	.26
(15)病院への同行	5.4	26	4.9	8	.06
(16)忘れ物の指摘	8.8	42	6.8	11	.63
(17)車やバスでの席譲り	7.5	36	5.6	9	.71
(18)話しや相談などへの傾聴	11.3	54	8.0	13	1.37
(19)肩もみ	5.6	27	6.2	10	.06
(20)食べやすいものの調理	4.2	20	3.1	5	.38
(21)遊びや買い物などへの同伴	13.4	64	9.3	15	1.89
(22)おみやげの授与	42.2	202	29.0	47	8.82＊＊
(23)留守時、飼っている生き物の世話	3.5	17	3.1	5	.08
(24)駅までの見送り、出迎え	10.2	49	8.6	14	.34
(25)よい病院などの情報提供	9.4	45	5.6	9	2.31
(26)干渉しあわないような配慮	10.0	48	11.1	18	.16

注：各援助を受容した人の割合を示す（単位は%）。
有意なボランティア経験差が見られたものには、(濃いもの：p＜.01、薄いもの：p＜.05)網掛けがしてある。
＊＊＊ p＜.001、＊＊ p＜.01、＊ p＜.05、＋p＜.10

験あり群よりも経験なし群の方が高い援助行動においては、ボランティア経験のない高齢者がそ（れら）の行動に主として関わるという関係が認められた。

(5) 性別、年齢、ボランティア活動経験の有無による援助行動経験の差異（3要因分散分析の結果）

高齢者が援助の担い手、または受け手として行動し得る可能性を明らかにするために、援助に関する行動経験を性別と年齢およびボランティア活動経験の有無から検討した。すなわち、回答者の年齢（若年高齢者、老年高齢者）と性別（男、女）、およびボランティア

表 23　日常生活における援助授受関係のボランティア経験差（N＝641）

援助の内容	授与のみ群		受容のみ群		授受あり群		授受なし群		
	%	N	%	N	%	N	%	N	$\chi^2(3)$
(1)健康を気づかっての電話	35.1	168	5.6	27	24.2	116	35.1	168	7.26＋
	25.3	41	4.9	8	24.1	39	45.7	74	
(2)炊事洗濯などの身の回り代行	10.9	52	1.9	9	2.5	12	84.8	406	3.99
	14.2	23	3.7	6	1.2	2	80.9	131	
(3)入院時の介護	10.0	48	1.5	7	0.4	2	88.1	422	.73
	9.9	16	1.2	2	0.0	0	88.9	144	
(4)旅行の誘い	21.9	105	15.0	72	21.7	104	41.3	198	4.27
	18.5	30	14.8	24	16.7	27	50.0	81	
(5)おかずや野菜のおすそ分け	15.9	76	7.1	34	18.8	90	58.2	279	5.74
	11.7	19	9.3	15	13.0	21	66.0	107	
(6)降雨時、留守宅の洗濯物とり入れ	8.8	42	1.5	7	1.7	8	88.1	422	4.03
	14.2	23	1.2	2	1.2	2	83.3	135	
(7)目的地への車での送迎	28.6	137	14.6	70	10.2	49	46.6	223	6.68＋
	22.8	37	13.6	22	6.2	10	57.4	93	
(8)講演会などの行事案内通知	16.7	80	12.3	59	15.7	75	55.3	265	11.60＊＊
	11.7	19	12.3	20	7.4	12	68.5	111	
(9)2、3日姿を見せなかった時の声かけ	17.1	82	3.8	18	5.2	25	73.9	354	4.29
	11.1	18	3.7	6	3.7	6	81.5	132	
(10)代わりの荷物持ち	16.3	78	2.1	10	1.9	9	79.7	382	1.35
	17.3	28	1.9	3	0.6	1	80.2	130	
(11)買い物の代行	10.6	51	2.1	10	4.2	20	83.1	398	2.47
	9.3	15	3.7	6	2.5	4	84.6	137	
(12)趣味のサークルなどへの勧誘	27.8	133	9.4	45	12.7	61	50.1	240	17.51＊＊
	15.4	25	9.3	15	7.4	12	67.9	110	
(13)金銭の授与	6.9	33	0.8	4	2.1	10	90.2	432	4.36
	9.3	15	0.6	1	0.0	0	90.1	146	
(14)宅配便の預かり	10.9	52	4.6	22	5.4	26	79.1	379	1.08
	8.6	14	4.3	7	4.3	7	82.7	134	
(15)病院への同行	18.4	88	3.5	17	1.9	9	76.2	365	7.27＋
	9.9	16	2.5	4	2.5	4	85.2	138	
(16)忘れ物の指摘	16.3	78	5.4	26	3.3	16	74.9	359	2.92
	11.7	19	4.3	7	2.5	4	81.5	132	
(17)車やバスでの席譲り	24.4	117	3.1	15	4.4	21	68.1	326	4.05
	18.5	30	3.1	5	2.5	4	75.9	123	
(18)話や相談への傾聴	30.1	144	2.7	13	8.6	41	58.7	281	5.01
	23.5	38	1.9	3	6.2	10	68.5	111	
(19)肩もみ	7.3	35	3.8	18	1.9	9	87.1	417	.22
	7.4	12	3.7	6	2.5	4	86.4	140	
(20)食べやすいものの調理	8.8	42	2.1	10	2.1	10	87.1	417	4.25
	7.4	12	3.1	5	0.0	0	89.5	145	
(21)遊びや買い物などへの同伴	18.0	86	4.2	20	9.2	44	68.7	329	2.61
	21.0	34	3.7	6	5.6	9	69.8	113	
(22)おみやげの授与	24.0	115	8.8	42	33.4	160	33.8	162	11.11＊
	24.1	39	6.8	11	22.2	36	46.9	76	
(23)留守時、飼っている生き物の世話	6.3	30	2.5	12	1.0	5	90.2	432	1.10
	4.3	7	2.5	4	0.6	1	92.6	150	
(24)駅までの見送り、出迎え	19.2	92	5.6	27	4.6	22	70.6	338	4.23
	14.2	23	3.1	5	5.6	9	77.2	125	
(25)よい病院などの情報提供	12.9	62	5.0	24	4.4	21	77.7	372	5.90
	8.6	14	1.9	3	3.7	6	85.8	139	
(26)干渉しあわないような配慮	27.1	130	1.5	7	8.6	41	62.8	301	.80
	29.6	48	1.2	2	9.9	16	59.3	96	

注：各援助項目は上段はボランティア活動経験のある人を、下段はない人を示している。
有意なボランティア経験差が見られたものには（濃いもの：p＜.01,薄いもの：p＜.05 網掛けがしてある。
＊＊＊ p＜.001、＊＊ p＜.01、＊ p＜.05、p＜.10

活動経験(経験あり、経験なし)を独立変数にし、行動経験得点を従属変数とした、2×2×2の3要因分散分析を授与、要請、受容の3タイプ別に行った。なお、行動経験得点は、26項目の援助行動のそれぞれについて、最近3ヶ月間に行っていれば1点、行っていなければ0点と配点し、授与、要請、受容ごとに単純加算したもので、得点が高いほど、各タイプの行動を多様に行っていることを意味する。

各行動経験得点を算出した下位尺度の信頼性係数は、授与経験、要請経験、受容経験の順に、α＝.78、.79、.76となっており、尺度の内的整合性は確認されている。

各行動経験の要因別平均値と標準偏差は表24に、分散分析の結果は表25に示した。

まず、援助授与行動の経験の多様さについてみると、性別とボランティア活動経験の有意の主効果が認められた。つまり、女性（M＝7.34、SD＝4.10）の方が男性（M＝5.42、SD＝3.81）よりも、また、ボランティア活動経験のある人（M＝6.58、SD＝4.13）の方が経験のない人（M＝5.38、SD＝3.68）よりも、日ごろ近隣社会において多様に援助授与を行っていることが明らかとなった。さらに、性別とボランティア活動経験の間に有意な交互作用が認められたので、下位検定を行ったところ、援助授与の場合、男性では差がないのに、女性ではボランティア活動経験のない人（M＝5.73、SD＝3.44）よりも活動経験のある人（M＝7.79、SD＝4.16）の方が多様な援助を授与していることが、一方、ボランティア活動経験のない人では差がないのに、ある人においては、男性(M＝5.52、SD＝3.80)よりも女性（M＝7.79、SD＝4.16）の方が多様な援助を授与していることが明らかとなった（図4）。

次に、援助要請行動の経験の多様さについてみると、ボランティア活動経験の有意の主効果が認められた。つまり、水準は低いが、ボランティア活動経験のない人（M＝1.91、SD＝2.45）よりも経験のある人（M＝2.58、SD＝3.06）の方が相対的に多様に他者に援助を求めていることが明らかとなった。このことは、日頃よく援助を授与しているから、あまり躊躇することなく他者に援助を要請していることを示している。なお、年代とボランティア活動経験の間に有意な交互作用が認められたので、下位検定を行ったところ、援助要請の場合、老年高齢者では差がないのに、若年高齢者ではボランティア活動経験のない人（M＝1.62、SD＝1.97）よりもボランティア活動経験のある人（M＝2.85、SD＝3.35）の方が多様な援助を要請していることが、一方、ボランティア活動経験のない人では差がないのに、ある人では、老年高齢者（M＝2.30、SD＝2.70）よりも若年高齢者（M＝2.85、SD＝3.35）の方が相対的に多様な援助を要請していることが明らかとなった（図5）。

最後に、援助受容行動の経験の多様さについてみると、性別とボランティア活動経験の

表 24　援助行動経験の多様さの要因別平均値と標準偏差

要因			N	授与		要請		受容	
A	B	C		M	SD	M	SD	M	SD
男	若年高齢者	経験あり	109	5.90	4.20	2.25	3.28	2.61	2.87
		経験なし	43	4.86	3.22	1.74	2.18	2.28	2.40
		総和	152	5.61	3.97	2.11	3.01	2.52	2.75
	老年高齢者	経験あり	133	5.22	3.43	2.23	2.75	2.87	2.83
		経験なし	56	5.39	4.25	1.79	2.44	2.64	2.37
		総和	189	5.27	3.68	2.10	2.66	2.80	2.70
	総和	経験あり	242	5.52	3.80	2.24	3.00	2.76	2.84
		経験なし	99	5.16	3.82	1.77	2.32	2.48	2.38
		総和	341	5.42	3.81	2.10	2.82	2.68	2.72
女	若年高齢者	経験あり	127	8.32	4.47	3.36	3.33	4.09	3.36
		経験なし	23	5.61	2.90	1.39	1.53	2.74	2.47
		総和	150	7.91	4.37	3.06	3.20	3.88	3.27
	老年高齢者	経験あり	86	7.00	3.52	2.42	2.63	4.23	3.45
		経験なし	37	5.81	3.78	2.59	3.10	3.51	3.25
		総和	123	6.64	3.63	2.47	2.77	4.02	3.39
	総和	経験あり	213	7.79	4.16	2.98	3.10	4.15	3.39
		経験なし	60	5.73	3.44	2.13	2.66	3.22	2.97
		総和	273	7.34	4.10	2.79	3.02	3.94	3.32
総和	若年高齢者	経験あり	236	7.20	4.51	2.85	3.35	3.41	3.22
		経験なし	66	5.12	3.11	1.62	1.97	2.44	2.42
		総和	302	6.75	4.32	2.58	3.14	3.20	3.09
	老年高齢者	経験あり	219	5.92	3.57	2.30	2.70	3.41	3.15
		経験なし	93	5.56	4.05	2.11	2.73	2.99	2.77
		総和	312	5.81	3.71	2.24	2.71	3.28	3.04
	総和	経験あり	455	6.58	4.13	2.58	3.06	3.41	3.18
		経験なし	159	5.38	3.68	1.91	2.45	2.76	2.63
		総和	614	6.27	4.05	2.41	2.93	3.24	3.06

注：要因 A は性別を、要因 B は年代を、要因 C はボランティア経験を表す。

表 25　各援助行動経験における分散分析結果

要因	df	援助授与	援助要請	援助受容
性別(A)	1	12.92＊＊	2.51	13.05＊＊＊
年代(B)	1	.72	.06	1.79
ボランティア活動経験(C)	1	10.17＊＊	6.06＊	5.21＊
A×B	1	.42	.05	.07
A×C	1	4.14＊	.59	1.70
B×C	1	3.36＋	3.95＊	.41
A×B×C	1	.73	3.51＋	.21

注：有意水準は、＊＊＊ p＜.001、＊＊ p＜.01、＊ p＜.05、＋p＜.10

有意な主効果が認められた。つまり、男性（M＝2.68、SD＝2.72）よりも女性（M＝3.94、SD＝3.32）の方が、また、ボランティア活動経験のない人（M＝2.76、SD＝2.63）よりも経験のある人（M＝3.41、SD＝3.18）の方が、日頃多様に他者からの援助を受容していることが明らかとなった。なお、援助受容においては、有意な交互作用は認められなかった。

以上のように、日常的に近隣社会でなされている援助に関する行動の多様さは、ボランティア活動経験の有無によって異なっていることが分かった。ボランティア活動経験のある高齢者はボランティア活動経験のない高齢者と比べて、援助授与、援助要請、援助受容のすべてのタイプの行動において積極的で、それらの行動に多様に関わっているようである。すなわち、ボランティア活動の経験者は、ボランティア活動だけでなく、家族や知人、

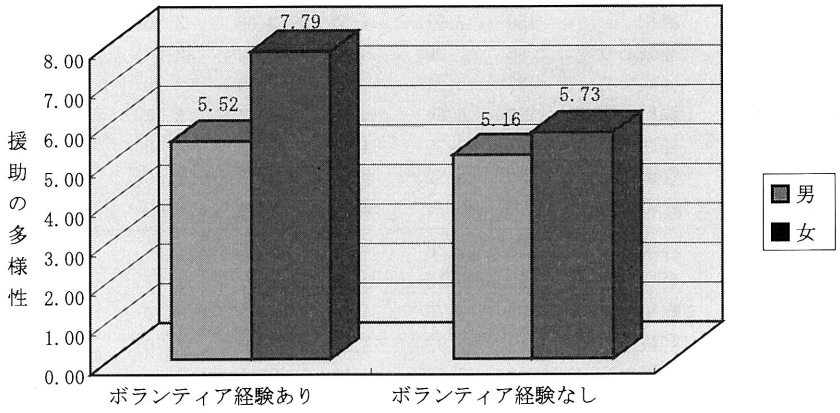

図4　援助授与の多様性に及ぼすボランティア活動経験と性別の効果

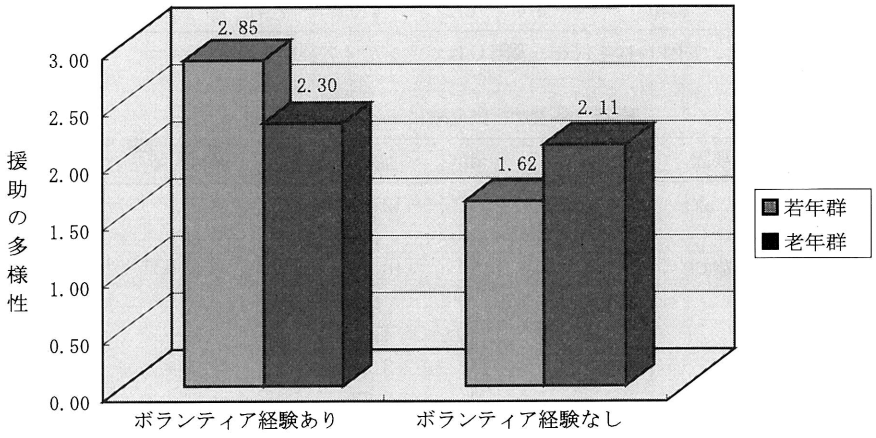

図5　援助要請の多様性に及ぼすボランティア活動経験と年代の効果

友人といった身近な人に対しても、日頃、援助者あるいは被援助者の立場で積極的に関わっていることが示唆された。また、性別の効果が、援助授与や援助受容において認められ、どちらも男性よりも女性の方が多様に関わっていることが示された。なお、近隣社会でなされる助け合いにおいては、年代の単独の影響は認められなかった。

【まとめと今後の課題】

本研究は、日頃高齢者が近隣社会において行っている援助の授受に焦点を当て、援助者あるいは被援助者の立場で行う援助授与、援助要請、援助受容それぞれの行動の、およびその関連性の特徴を、加えて、それらが性別や年齢、ボランティア活動経験といった主体要因によっていかに異なるかを明らかにすることを目的とした。

調査の結果から明らかになったことは以下通りである。

(1) 高齢者の援助行動の特徴

まず、援助授与、援助要請、援助受容の3つのタイプの行動の中で、全体としてみると、最も経験率の高いのは援助授与であった。高齢者は、一般に、援助を受ける立場として認識されてきたが、生活基盤である近隣社会においては、被援助者としてだけでなく、援助者としても積極的に行動しており、高齢者が援助の担い手として十分貢献し得ることが示唆された。したがって、高齢者を援助の受け手とする固定的な見方は必ずしも適当でないことが明らかとなった。

近隣社会における日常的な援助行動は、偶然その場に居合わせた潜在的援助者と潜在的被援助者の間で交わされる一過的な援助というよりも、ある程度持続している人間関係の中で交わされる援助行動が多い(西川、1997)。本研究が問題にした日常的な援助行動の多くは、そのような援助行動であった。そのため、回答した高齢者の多くが援助者あるいは被援助者の立場で経験していた援助は、健康を気づかっての電話やおみやげの授与や旅行への誘いといった切迫していない場面で、比較的親しい間柄の他者との相互作用の中で起こる援助行動であった。このことから、高齢者が日常的に行う援助行動の多くが、援助者あるいは被援助者の立場での好意のやりとりを目的にして行われていることが考えられる。

(2) 高齢者の助け合いを異ならせるもの

本稿で取り上げた性別、年齢、健康度、ボランティア活動経験という要因の中で、近隣社会でなされる高齢者の援助行動に最も影響を与えたのは性別であった。援助行動の授与

と受容の対応関係を見たとき、女性同士ではよく行い合う援助行動がある一方で、男性同士でよく行い合う援助行動はなかった。特に、習慣的になされていると思われる援助において、援助者と被援助者のいずれの立場でも女性が一層積極的であり、多様に援助授与や援助受容に関わっていた。そして、女性がさかんに行っているのは、他者との関係をより親密に保つような援助であった。これは、26項目の援助行動が、地域社会を生活基盤とする主婦の援助行動を参考に選ばれていたためとも考えられるが、近隣社会における援助行動は、やはり女性が中心であり、彼女らが日常的に他者との温かみのある人間関係を維持させるために、援助を介したやりとりを積極的に展開している姿が窺える。反面、男性はこれらに比較的消極的であり、今後は男性を地域の中で孤立させないような具体的な施策が必要となろう。

加齢と援助行動とは直接的には結びつきにくいことが明らかとなった。授与、要請、受容の各タイプにおける経験率や多様性、および援助授与と援助受容の対応関係のいずれにおいても、年代の顕著な相違は認められなかった。しかし、健康状況で見ると、健康度の高い人と低い人では援助行動の様相は異なり、健康度の高い高齢者が援助の担い手となり、健康度の低い高齢者が受け手になりやすいという関係も見受けられた。高齢期になると、健康や体力面で個人差が拡大し、健康次第で援助を介した人間関係のあり方も異なってくることが予想される。

日常的に行う援助行動が、ボランティア活動経験のある高齢者とない高齢者で異なることが示唆された。ボランティア活動経験のある高齢者は、経験のない高齢者よりも、身近な人間関係における援助行動の授与、要請、受容の各タイプの行動に多様に、積極的に関わっていることが明らかとなった。援助授与と援助受容の対応関係を見た結果からも、近隣社会においてボランティア活動経験のある高齢者が積極的な援助の担い手となっていることが窺われた。また、彼らが積極的に行っている援助の特徴として、積極的で友好的な他者との関わりが指摘できよう。ボランティア活動は、一義的には、他者に恩恵を与える行動であるが、高齢者自身にとっては外出を伴う喜ばしい社会参加の活動でもある。そして、そのような社会参加活動への肯定的な態度が地域社会における人間関係にも肯定的な影響を与えると考えられる。さらに、このような対人態度の積極性が、自らが必要な時には臆することなく他者に支援を求め、他者からの好意をありがたく受容し、逆に、他者に恩恵を与える行動も進んで行うといった機能的な援助の好循環に寄与すると考えられる。

本研究は、高齢者大学受講中の高齢者から得られた回答に基づいて、高齢者の援助行動の特徴を明らかにした。総務庁が1995年に全国の60歳以上の男女を対象に実施した「高

齢者の地域社会への参加に関する調査」によると、学習・教養のサークル・団体への参加率は全体の5.0％にすぎない。したがって、本研究は、高齢者から成る一つの特定集団について検討したにすぎないことは否めず、多種、多様な高齢者の集団を対象にした研究が待たれる。しかしながら、全般的に健康で生活自立度も高く活動的な彼らにおいても、健康度の差異や性別、ボランティア活動経験の有無によって援助行動の授受の様相が異なるという本研究の結果は興味深いものといえよう。

参考文献

松井豊・西川正之（2001）Ⅳ近隣における高齢者への援助　人間・社会関係問題研究班著　人間・社会関係のダイナミクス　―ミクロからマクロまでの多角的分析―、125―164．関西大学政治・経済研究所．

西川正之（1997）主婦の日常生活における援助行動の研究　社会心理学研究、13、13―22．

西川正之（2000）近隣社会における援助とサポート　高木修（監）西川正之（編）シリーズ21世紀の社会心理学4　援助とサポートの社会心理学、52―61　北大路書房．

岡林秀樹（2000）高齢者の援助とサポート　高木修（監）西川正之（編）シリーズ21世紀の社会心理学4　援助とサポートの社会心理学、26―38　北大路書房．

妹尾香織（2001）援助行動における援助者の心理的効果―研究の社会的背景と理論的枠組み―　関西大学大学院人間科学、55、181―194．

妹尾香織・高木修・箱井英寿（2000）シニア層のボランティア意識と実態　日本社会心理学会第41回大会発表論文集、380―381．

総務庁長官官房高齢社会対策室（1997）数字で見る高齢社会1997　大蔵省印刷局．

高木修（1998）人を助ける心：援助行動の社会心理学　セレクション社会心理学―7　サイエンス社．

注）本稿の基になっている研究は、平成13年度より関西大学経済・政治研究所に編成されている「人間・社会関係問題研究班」において研究員（主幹）、高木修と大学院依託学生、妹尾香織とが共同で行った研究の一部である。

―2002．7．3受稿―